

令和6年度 第2回美濃地区教科用図書採択協議会議事録

- ・日 時 令和6年7月10日（水） 9：00 ～ 15：20
- ・場 所 美濃市防災・中央コミュニティーセンター 3階大会議室、答申者控室（2階大会議室）
- ・出席者 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会委員 事務局

【司会】

- ・ただいまから、令和6年度 第2回岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を始めます。はじめに、採択協議会会長のご挨拶申し上げます。

【会長】

- ・委員の皆様ありがとうございます。委員の皆様には、今日と明後日の2日間、格別にお世話になりますが、よろしくお願い申し上げます。
- ・これから、各教科の調査研究委員を代表して、答申者が、各教科書における調査研究の結果を報告いたします。教科書は、学習する子どもや教える教員にとって、大切な教材です。そして、その教科書の採択に関しては、保護者はもちろんのこと一般市民の方々の関心も高く、透明度の高い、開かれた教科書の採択が求められております。採択委員の皆様におかれましては、本会議の趣旨を十分ご理解いただいておりますので、皆様のお立場、様々な視点から忌憚のないご質問やご意見をいただき、慎重な審議の上、美濃地区の子供たちにとって最適な教科書が選定できますよう、よろしくお願い申し上げます。

【司会】

- ・本日の協議会は、協議会委員の出席者が過半数を超えているため、協議会規約第9条により、会の成立を認めます。今年度は、中学校の教科用教科書について、採択替えをする年ですので、資料のタイムスケジュールの順に、2日間に渡り、協議をします。本日まで、この協議会から委嘱した研究調査員が、文部科学省の検定を通過した教科書について全て調査研究をしました。本日はこの結果について、答申していただきます。
- ・教科ごとに、答申を聞いた後、質疑応答を経て、議決をします。各教科で30分を目途とし、16種目を協議します。それでは、国語の答申から始めます。

国語

【答申者】

1 答申者自己紹介

2 着眼点の説明

- ・国語科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における国語科において4つ課題があると考えています。1つ目、意見と根拠や情報と情報の関係についての理解等、「情報の取り扱い」に関する事項に課題があり、知識・技能を習得する必要があります。2つ目、読み手の立場に立って、叙述の仕方等を確認して、文章を整える「書くこと」に課題があり、「竹取物語」などの古典文学の読み取りについては、文章の構成や、展開、表現の効果の読み取りに弱さがみられるなど、思考力、判断力、表現力等が課題であると捉えています。3つ目、文を読み解く力に弱さがみられ、読書習慣に偏りがみられます。4つ目、講義式ではなく、生徒が主体的で対話的に学べる学習方法、学習過程と評価の在り方の改善が求められています。
- ・このような、岐阜県・美濃地区の実態を踏まえ、これらの課題と関連がある『着眼点1（2）「授業改善のための言語活動を通じた資質・能力の育成」』『着眼点2（1）「見通しのある教育課程や一貫性のある学習評価の取組の推進」』『着眼点2（2）「ICT(二次元コード)を積極的に活用した学習活動の充実」』の2点の着眼点から4者すべての調査結果を説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・まずは、着眼点1（2）「授業改善のための言語活動を通じた資質・能力の育成」についてです。
 - ① 「東京書籍」は、
 - ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各教材では、言語活動の各過程の具体例や完成作品例、対話の例が示されており、生徒が必要に応じて活用できるようになっています。
 - ・「てびき」には、「後の『意見と根拠』と合わせて学ぼう」と「読むこと」教材で習得したことを、続く「書くこと」教材で活用・定着できるように、領域間の関連が図られています。
 - ② 「教育出版」は、
 - ・巻頭にある「言葉の地図」に、学習内容と身に付けたい言葉の力が一覧にしてまとめられています。その中に、言語活動例を示しています。
 - ・「学びナビ」が教材内の本文や活動前に、その教材で「何を学ぶか」を確認できるように示されています。
 - ③ 「三省堂」は、
 - ・9つの単元全てにおいて、読むことを中心に置き、その後、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習を位置付け領域の関連が図られています。
 - ・各教材に「学びの道しるべ」があり、「目標」学習過程「学びを振り返る」「学びを広げる」を位置付け、生徒が自ら学びを進められる工夫があります。
 - ④ 「光村図書」は、

- ・各単元名の下部には、『読む』学習活動、単元の「目標」を位置付け、学習の見通しをもつことができるようにすることで、何を学ぶかが明確に示されています。
 - ・「学びへの扉」では、見開きの右に学習の流れ、「見通しをもつ『目標』」「振り返る」「学びのカギ」があり、左に資質・能力（「学びのカギ」）が位置付けられ、主体的な学びができるように工夫されています。
- ・次に着眼点2（1）（2）「見通しのある教育課程や一貫性のある学習評価の取組の推進と、ICT(二次元コード)を積極的に活用した学習活動の充実」について、4者すべての調査結果を説明します。
 - ① 「東京書籍」は、
 - ・「てびき」が見開きになっており、上段に学習の流れが示され、最後に「振り返る」が位置付けられています。生徒が学習を通して身に付いた言葉の力を確認し、育成すべき資質・能力を確実に周到でできるようになっています。
 - ・どの学年にも、二次元コードが位置付いており、練習問題、文法ゲームなど、年間で415コンテンツがあり個別最適な学びを支援できるように配慮されています。
 - ② 「教育出版」は、
 - ・単元の始めに「学びナビ」で、既習事項から本時の学び方を示し、「みちしるべ」の「振り返り」では、学習の振り返りができるように位置付けられています。
 - ・どの学年にも、二次元コードが3年間で149コンテンツが収録されており、図書館活用動画、表現に役立つ言葉、物語の解説等により主体的な学びや、個別最適な学習ができるようになっています。
 - ③ 「三省堂」は、
 - ・個別最適な学びを図るために、思考の方法（巻頭：学びの道しるべ）や学習用語辞典、語彙の広がり（巻末）が充実しています。「学びを振り返る」では、自分の学習を振り返って評価し、これからの学習に生かすことができるようにされています。
 - ・二次元コードは、3年間で500コンテンツ以上掲載しており、「動画・音声」「デジタルドリル」「参考資料」他、豊かな学びをサポートしています。
 - ④ 「光村図書」は、
 - ・単元の学習後、「学びへの扉」の「振り返る」には、「知る」「読む」「つなぐ」の観点で学習評価ができるように位置付けられています。
 - ・3年間で、352コンテンツが位置付いており、古典の朗読、文法ワーク、国語の力試し等のコンテンツがあると共に、文字サイズの変更。書体の変更、分かち書き表示、フリガナ表示等、すべての生徒が学びやすくカスタマイズできるため主体的、多面的に学習ができるよう配慮されています。
 - ・以上、各発行者の特徴について説明しました。先に述べました美濃地区の課題を鑑みたところ、「東京書籍」と「光村図書」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点1（2）「授業改善のための言語活動を通じた資質・能力の育成」から比較します。「読むこと」領域の2年「走れメロス」について、「伝統的な言語文化領域」の3年「おくのほ

そ道」について、比較した結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・ 2年184ページ「走れメロス」のように、教材の最初のページの右下に、生徒が課題を意識しながら読めるような「吹き出し」が提示されています。生徒が教材を学習していくための見通しがもてるようによく配慮されています。
- ・ 3年152ページ「おくのほそ道」のように、「古典コラム」が提示されています。古典に親しむ工夫がされており、よく配慮されています。

② 「光村図書」は、

- ・ 2年204ページ「走れメロス」のように、教材の最初のページの右下に、「読むという学習活動」が提示されており、この教材の出口の言語活動がわかりやすくなっています。また、この教材で身に付けたい資質・能力を「目標」として提示されており、授業を通して何を学習するかということが、生徒にわかりやすくなるよう、大変よく配慮されています。
 - ・ 3年167ページ「おくのほそ道」のように、「つながる古典」が提示されています。小中高で学習する古典のつながりが視覚化されており、古典に親しむ工夫がされています。更に「広がる読書」が、教材ごとに位置付けられており、生徒が国語の学習を通して興味・関心をもったことを広げていく工夫が大変よく配慮されています。
- ・ 着眼点2（1）（2）「見通しのある教育課程や一貫性のある学習評価の取組の推進」について、比較した結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・ 領域別教材一覧が示され、一年間の学習の見通しをもち、身に付ける「言葉の力」を確かめることができるよう配慮されています。学習の「てびき」が位置付けられており、見通しをもった学習を進めることができます。
- ・ 1年生教科書13、14ページ「教科書の使い方」において、教科書の使用だけでなく、学習の流れについての記述があり、中1ギャップに対応されたつくりになっています。
- ・ 「てびき」にある、学習後の「振り返る」では、学習から発展させ学んだことを生かし、これからの学習にどうかすのかを自ら考えることができるようによく配慮されています。

② 「光村図書」は、

- ・ 1年生の教科書の巻頭には、中1ギャップに考慮し、「学習の見通しをもとう」で1年間どんな学習をし、どんな力を身に付けるかについてわかりやすく表示されています。また、16～18ページ「言葉に出会うために」では、小学校で学習した「野原うた」の詩を取り上げて学習方法を学べるように仕組みられています。
 - ・ 12、13ページ「主体的な学びのために」では、今後の学習において、カギとなる「学びへの扉」（学習の流れ）と、「学びのカギ」（学習のポイント）があり、主体的に学習に取り組めるように教科書の機能が説明してあります。
 - ・ 学習後の「振り返る」には、どの資質・能力について振り返るのかわかりやすく表示されています。さらに、教科書内に出てくる「主な記号など」の説明や教科書に出てくる書体についてもわかりやすく説明され大変よく配慮されています。
- ・ 続いて、この2者を着眼点2（2）「ICT(二次元コード)を積極的に活用した学習活動の充実」につ

いて、比較した結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・個別最適な学びをめざして「授業の導入」「活動の助けに」「学力の定着に」「より深い学びに」の代表的な4つの場面に焦点を当て、二次元コードのコンテンツを教科書に位置付けています。
- ・「授業の導入」では、1年生147ページ「竹取物語」のコンテンツに朗読音声とともに挿絵が使われており、生徒の理解を支援しています。「活動の助けに」の文法の単元では、文法ゲームがあり教科書にない練習問題もあり、ゲーム感覚で生徒が学習に取り組めるよう工夫がされています。「学力の定着に」では、学習活動の定着を図るための練習問題があります。解答・解説は教師用指導書に書かれています。「より深い学びに」では、作者、筆者の生涯や作品についての動画や、古典では他の章段が収められており生徒の学習を深めることを支援しています。1年生教科書297、298ページにはデジタルコンテンツ一覧もあり、生徒の学習を支援しています。以上のように4つの場面で生徒に、より学習効果が表れるようよく配慮されています。

② 「光村図書」は、

- ・一人一人の学びに寄り添い、可能性を広げるために生徒が個別最適な学びができる二次元コードのコンテンツが教科書に位置付けられています。
 - ・生徒一人一人のニーズに合わせ、「自ら選ぶ」「能動的に取り組む」「学校でも家庭でも」をテーマとしコンテンツを位置付けています。1年生156ページの『蓬萊の玉の枝 「竹取物語」』では、「苦手なことを克服したい」生徒を支援するために朗読音声のコンテンツがあります。また、140ページの「書くことのミニレッスン」では、デジタル端末上で解答できる練習問題があり、教材のポイントを短時間で押さえられ、授業の導入や家庭学習でも活用できるようになっています。「国語の力試し」では、教科書掲載問題と発展問題が収録されています。自己採点ができ、採点基準も詳細に明記しており、生徒が自らの学習を調整する力が身に付くようになっています。文法の単元でも練習問題があり、自己採点可能なつくりになっています。「筆者の考えをもっと知りたい」生徒には作者、筆者のインタビュー動画が収められており、生徒の興味・関心や課題に応じて自由に選択できるつくりになっています。1年生教科書340、341ページには「ICT活用のヒント」があり、ICT機器を使うと効果的な場面を示し、主体的に活用できるように作られています。活用の場面が「見通しをもつ」「知識・技能の習得」「情報収集・情報処理」「自分の考えを深める」「考えを表現をする」「友達との交流・共有」「振り返る」の7場面に分かれており、ICTを使う場面を生徒によりわかりやすく示しています。
 - ・以上のことより、生徒の個別最適な学びができるように大変よく配慮されています。
 - ・以上が調査研究となります。なお教科書展示会において、
 - ・東京書籍や他の会社と比較して、二次元コードが多すぎず紙面の圧迫感がない教科書がよいと思います。
- という意見がありました。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・光村図書と東京書籍について、短歌の指導にどのような違いはありますか。

【答申者】

- ・光村図書では、3年生68ページ、東京書籍19ページになります。どちらも俳句についての説明がされていますが、光村図書は、学習の見通しが示されており、生徒自身がわかるようになっています。また、振り返る視点も示されています。主体的に学ぶということを考えたときに、光村図書の方がよいと考えます。

【委員】

- ・この地域にゆかりのある方の作品が掲載されているので光村図書がよいと思います。

【委員】

- ・単元の目標、何を学ぶかがはっきりと示されています。生徒が自分の力で学んでいく手助けになるということを考えると、光村図書はそういった面で見通しがもてるのではないかと考えます。

【委員】

- ・「走れメロス」を比べました。光村図書は、挿絵が効果的に示されています。学び進めるうえで、光村図書は学習活動、目標、自分の選んだ観点など細かく配慮されたつくりとなっています。学習を振り返るところについては、どこに着目すればよいかが示されています。指導者の立場に立って見たときも非常によいです。
- ・ICTについて、光村図書はどう使うとよいかが使う人にとってわかりやすいです。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、光村図書を採択することが望ましいという方向だと思われれます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思ひます。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

外国語

【答申者】

1 答申者自己紹介

2 着眼点の説明

- ・外国語科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における外国語科の指導の課題については、生徒の実態から、令和5年度全国学力・学習状況調査において「書くこと」より、特に、聞いたり読んだりしたことについて話したり書いたりすることに課題がみられ、「目的・場面・状況を適切に捉え、思考・判断・表現する力」を育成する必要があると考えています。さらに、「英文における正確さ」、すなわち知識・技能に関わった指導・5領域の統合的な指導の充実を図る必要があると考えています。また、「読むこと」について、英文内容の概要を捉えることに課題がみられ、まとまりのある英文について、目的をもって英文を読む指導が必要であると考えています。
- ・以上のような美濃地区の課題と関連がある『着眼点1（1）「資質・能力の3つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成』『着眼点2（1）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化』を中心に、6者すべてを調査しましたのでその結果を説明させていただきます。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

① 「東京書籍」は、

- ・着眼点1については、概要把握に関する設問や、聞いたり読んだりしたことについて話したり、書いたりする活動が多く設定されています。
- ・ラウンドリーディングによって、文章の内容を概要から詳細の順に捉える力が身に付くようになっています。
- ・次に、着眼点2では、二次元コードにより、授業で、本文内容を理解するための動画を視聴したり、イラストを活用して表現課題に取り組んだりすることができるようになっています。一方、家庭でも、単語や基本文の問題を行ったり、音声聞いて音読したりするなどができ、特に、教科書本文や単語の訳のみではなく、クイズ形式の問題や、文法の解説動画もあり、家庭学習でも、活用できる構成になっているのが特徴です。

② 「開隆堂」は、

- ・着眼点1について、本文の内容を振り返り、リテリングする活動「Review & Retell」が設定されています。
- ・必要最小限の対話設定なので、新出表現にフォーカスしやすくなっています。
- ・着眼点2に関して、二次元コードから、教科書に掲載されている単語と意味が一覧で見ることができるようになっています。そのため、授業において、本文内容の理解に限らず、表現課題に取り組む際も、活用ができるようになっています。
- ・一方、教科書の本文を音声で聞くことができるため、家庭学習において、音読練習等に活用ができるようになっています。

③ 「三省堂」は、

- ・着眼点1については、Goal Activityにおいて、英文の概要や要点を読み取る設問と、読んだ英文を参考に自分のことについて表現する設問が設定されています。また、各 Lesson の各パートにおいても、英文の概要・要点を捉え、自分の考えを表現できるようになっています。
- ・着眼点2では、二次元コードから、教科書本文や単語の音声のみではなく、単元で学ぶ題材についての資料動画を見ることができ、興味・関心が湧く内容となっています。
- ・また、単語クイズや、基本本文の音読を行い、文字と音声を一致させることができるか、確認することができるため、家庭学習で、生徒の学習進度に応じて、使用することが可能となっています。

④ 「教育出版」は、

- ・着眼点1から、「Tips for Reading/Listening」において、概要や要点等を捉えるコツが示されていたり、Read & Try!では、Part 3の長めの本文を読んで行う概要・要点整理や本文から派生した活動が設定されていたりします。
- ・着眼点2については、二次元コードから教科書本文の音声を聞くことができるため、授業の際に文字と音声を一致させる練習を行うことが可能となります。
- ・また、単元最初のページには、単語や基本本文の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る問題が掲載されているため、家庭で取り組むことができるようになっています。

⑤ 「光村図書」は、

- ・着眼点1では、巻末のCAN-DO Listには、各単元で重点的に指導する領域が設定されており、各領域の力がバランスよく育成できるようになっています。
- ・また、付録「英語の学び方ガイド」には、概要を捉える聞き方等が詳しく記載されているのが特徴です。
- ・着眼点2では、授業において、本文内容に関する動画を視聴することや、ピクチャーカードを本文の内容に即して並び替える問題に取り組むことが設定されています。
- ・基本本文の解説動画があるため、家庭で視聴し、予習・復習を行うことが可能となっています。

⑥ 「啓林館」は、

- ・着眼点1では、Let's Readにおいて、話の概要や要点を整理して、読んだ内容について意見や感想を伝え合ったり要約をしたりできるようになっています。
- ・また、Let's ListenやListen & Thinkでは、必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりする問題が設定されています。
- ・着眼点2では、二次元コードから本文内容や単語の発音を確認することができるため、授業において音読練習に活用することができます。
- ・また、基本本文の解説動画があり、家庭学習において、予習・復習を行うことが可能となっています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。美濃地区の実態から、「東京書籍」と「三省堂」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点1(1)と2(1)に注目し、その結果を比較・説明します。
- ・着眼点1(1)について

① 「東京書籍」は、

- ・概要把握に関する設問や、聞いたり読んだりしたことについて話したり、書いたりする活動が3年間を通して多く設定されています。各 Lesson のRead and ThinkやUnit Activity、そして、実生活に即した場面設定で実際に使える英語力を身に付ける小単元Real Life Englishでも数多く上記のような問題が設定されています。特に、Read and Thinkでは、概要把握、要点理解等の言語活動が必

ず設定されており、ラウンドリーディングによって、文章の内容を概要から詳細の順に捉える力が身に付くようになっていきます。ラウンドリーディングとは、Round 1～3の設問に沿って、3回視点を変えて読解のポイントを絞って英文を読む活動のことで、これにより、英文を適切かつ効率的に読む力が身に付くようになっていきます。また、英文を読み取った後には、自分の考えを表現する活動が設定されており、それにより、聞いたり読んだりしたことについて話したり、書いたりする力が身に付くように配慮されています。

② 「三省堂」は、

- ・各 Lesson の各 Part で、英文の概要・要点を捉え、自分の考えを表現できる設問 Listen & Read が設定されているため、新しい文法事項を学んだり、活用したりしながら、概要や要点を捉える力も身に付くようになっていきます。それだけでなく、その後に Think about Yourself という設問があり、自分の考えを表現できるような構成になっています。また、単元終末の活動である Goal Activity では、英文の概要や要点を読み取る設問 Read と、読んだ英文を参考に自分のことについて表現する設問 Talk や Write などが設定されています。Read では、様々な英文の概要や要点を捉え、それらを適切に整理する設問が設定されています。Talk や Write では、読んだことについて話したり、書いたりする設問が設定されているため、様々な題材について書かれた英文を読んで自分の考えを表現できるようになっており、大変よく配慮されています。
- ・着眼点 2 (1) について

① 「東京書籍」は、

- ・二次元コードを活用し、教科書本文の内容理解ができるようになってきていることから、文字と音声の一致や単語や基本文の定着を図ることができます。教科書にある Preview の目的・場面・状況を理解し、内容に合うものを選択する問題では、アニメーションを視聴することができます。放送原稿、いわゆる Script を選択することができ、授業において、Script を Off にして、聞き取ることができた情報を交流する協働的な学びも、家庭において、Script を On や Off にして、自分で聞いて理解できたか確認したり、Script を見て意味内容を理解したりする個別最適な学びもできるように、配慮されています。
- ・こちらの二次元コードを使用することによって、教科書本文も音声を聞くことや本文で使用する単語についても、練習することができます。教科書本文で使用する文法について解説している動画を視聴することができ、授業でも家庭でも使用することで、協働的な学びや個別最適な学びを一体的に行うことができるように、配慮されています。

② 「三省堂」は、

- ・二次元コードを活用し、知識・技能の定着を図ることができるようになっていきます。こちらの二次元コードを使用すると、教科書本文のアニメーションや、音声、Script の確認、単語の練習や問題、文法の解説動画も視聴することができます。また、こちらの二次元コードを使用することによって、イラストを活用した基本文の練習を行うことができます。イラストの上に、基本文をつくるためのカギとなる単語のみ表示してあるパターン、全文が表示してあるパターンがあります。授業においては、全体で音読をして基本文を定着させる活動や、ペアで、日本語を英語にする活動を行うなど、多くのバリエーションで活用し、協働的な学びを行うことが可能です。家庭では、自分に合ったパターンを選択して繰り返し練習し、個別最適な学びを行うことが可能です。
- ・自分で取り組んだ学習については、足跡が残るようになっていきます。単語の練習や単語のクイズにおいても同じ機能を、繰り返し使用できます。生徒が、自分で学びを実感することができるようになっており、自ら学ぶ姿勢をつくる一助となっていることから、大変よく配慮されています。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・中学校の教科の中で、時数が一番多いのが英語です。小学校でも外国語活動が行われるようになってきている中で、中学校に入ったときに、授業が難しくなるといわれるのが英語といわれています。コンテンツの数については、1年生が多くて3年生になるにつれてコンテンツ数が少なくなっています。そこには、何か理由がありますか。

【答申者】

- ・学年が上がるにつれてコンテンツの内容が少なくなっているのは、単元の内容に時間をかけるためではないかと考えます。中学校の教科書には、小学校の学習の復習や関連が位置付いているので、どの教科書も小学校から中学校への接続は配慮されています。

【委員】

- ・2者に大きな違いはありますか。

【答申者】

- ・着眼点2について大きく工夫されているのは三省堂です。授業だけでなく、授業後の個々の学びがしやすいようつくりになっています。

【委員】

- ・学校には、電子黒板があります。これだけコンテンツが豊富になるとデジタル教科書はいるのでしょうか。

【答申者】

- ・授業の中で、二次元コードで読み取ることができるコンテンツとデジタル教科書の本文を拡大提示することを併用することで学習が広がるのではないかと考えます。

【委員】

- ・長文を読み取って自分の考えを話したり書いたりして伝えることは、長文が長くなることで難しくなります。ステップに沿っていくことができるようにされているところがよいと思います。
- ・デジタルコンテンツについては、家庭で自分に合った問題を選ぶなど学習ができることがよいと思います。

【委員】

- ・三省堂は、ステップをふんだ授業が展開できるようになっています。家庭で自分の学習に合ったコンテンツを選ぶこともできます。今、自分の考えを表現できるような力が必要になっている中で、そういったことができる点で三省堂がよいと思いました。

【委員】

- ・2者の巻末資料の単語ワードリスト、三省堂と東京書籍では単語数がかなり違います。1年生を見ても三省堂は単語掲載数が多く、東京書籍は少ないです。この部分について調査されたことを教えてください。1年生の教科書では、三省堂資料24ページ、東京書籍130ページになります。

【答申者】

- ・中学校で学ぶ単語はどちらも網羅しています。あとは、生徒が必要に応じて巻末資料を活用できるかどうかです。

【委員】

- ・それぞれの単元で、授業の中で「～をしよう」というものがあります。例えば、三省堂の1年生では、「ランキングをつくろう」「プロフィールカードを交換しよう」です。どんな活動を仕組むかについては教科書によって違うと思いますが、教科書に掲載されている活動を見たときに、先生や生徒が活動するうえで、活動のしやすさなどの違いがあれば教えてください。

【答申者】

- ・どちらの教科書についてもすばらしい教材が掲載されています。三省堂は自分のことを表現できるという部分が特徴であり使いやすさであると考えます。

【司会】

- ・今の答申のなかで、それを受けて質問・検討を進めて参りました。その結果から、三省堂を採択することが望ましいという方向だと思われれます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

社会科（地理的分野）

【答申者】

1 答申者自己紹介

2 着眼点の説明

- ・中学校社会地理的分野では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における中学校社会地理的分野の課題は、次の2点で捉えています。
- ・1点目は、授業において生徒がどのように地理的な見方・考え方を働かせ認識を広げ深めていくのか、また、単元全体を通して生徒自らどのように「主体的・対話的で、深い学び」を展開していくかです。
- ・2点目は、コロナ禍を通じて1人1台端末が実現し、中学校では初の教科書の採択替えになります。生徒にとって学習用具としてのタブレット端末の活用が促され、より効果的な活用、とりわけICTを用いた「個別最適な学び」や「協働的な学び」が展開されていくことが求められています。
- ・この2点の課題と併せ、美濃地区では教職員の年齢構成が二極化しており、どの学校、学年でも生徒への適切かつ効果的な教科書の活用をし、生徒の学びをより充実したものにしていくこと、生徒の学びにおける質的担保をしていく必要があることも考慮する必要があると捉えています。
- ・そこで、これら大きな2点の課題等を踏まえ、その関連性がある『着眼点1-（1）「資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成』、『着眼点2-（1）・（3）のICTを活用した個別最適な学び協働的な学びの充実』の2点から4者全ての調査結果を説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・まずは着眼点1-（1）「資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成から説明します。
- ① 「東京書籍」は、
 - ・冒頭6ページをご覧くださいと「地理を学ぶ 5つのミカタ」コーナーで、位置や分布、結びつきなど、地理的な見方・考え方を働かせるための視点を示し、キャラクターの会話等により具体的な言葉で例示しています。
 - ・また、単元の導入9ページのように「地理のミカタ」を位置付け、特に働かせたい見方・考え方を示すことで、資料を基に共通性や特殊性を見抜くことができるよう配慮されています。
 - ・さらに、単位時間ごとの見開きにおいても73ページのように虫眼鏡のマークを用い、「場所」「結びつき」を示すとともに鉛筆マークを用いて、見方・考え方を働かせどのように読み取るとよいかを促すよう大変よく配慮されています。
- ② 「教育出版」は、
 - ・巻頭2ページをご覧くださいと、④「地理的な見方・考え方」についてで、学習を進めるための視点や方法として位置や広がりなどの地理的な見方・考え方を紹介しています。
 - ・また、25ページのように章のはじめに「見方・考え方はたらかそう」を位置付け、その章で注目

したい見方・考え方を明確にし、資料等から適切に読み取ることができるよう配慮されています。

③ 「帝国書院」では、

- ・巻頭8ページをご覧くださいと、「地理的な見方・考え方」について、位置や分布、場所等の視点と併せ、それぞれの視点の一例を写真やキャラクターの会話をとおして例示しています。
- ・また、42ページの上段、1章の問いに記されているように「見方・考え方」マークを付し、単元全体を通じて学んだことを活用して考えるような問いが設定され、学びを深めていけるようよく配慮されています。

④ 「日本文教出版」では、

- ・巻頭3～4ページをご覧くださいと、見開きで「地理的な見方・考え方って？」として、位置や分布などの視点を示し、読み取りのポイントを明記することでわかりやすく解説したり、イラストを見ながら問いに対する自らの考えを明らかにしたりするような工夫がされています。
- ・また、単元の導入44ページの下段のように、「本章で主に働かせる見方・考え方」を示し、その章の中核となる見方・考え方を明示し、さらには、48ページの中段左にあるように、全ての単位時間で学習課題に対してどんな見方・考え方を働かせると課題解決につながるのかがわかりやすく示され、生徒の主体的な学びが促されるようよく配慮されています。

- ・着眼点2-（1）・（3）のICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの充実について説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・全編を通して、138個の二次元コードが付され、映像資料やワークシート、統計資料など、多種多様なコンテンツが準備されており、生徒の主体的な学びが促されるよう配慮されています。
- ・巻末3ページでは、「デジタルコンテンツを活用しよう」が位置付けられ、見開きに示された二次元コードはどのような役割を果たしているのか、どんな内容になるのか等が示され、導入→展開→まとめという単元の学習の流れの中で様々な場面で活用できるよう大変よく配慮されています。
- ・37ページには、Dマークが3ヶ所位置付けられ、動画による学びが確保され、生徒に実感を伴った理解が図られるよう工夫されています。

② 「教育出版」は、

- ・全編を通して、「まなびリンク」という34個の二次元コードが付され、各種のコンテンツにアクセスして個の学びを支えてくれます。
- ・こちらの27ページや139ページのように、「地理の技」のコーナーでは、先ほどのまなびリンクが位置付けられ、地図やグラフ等の読み取り方や作成の仕方を動画をもとに説明・解説するなど配慮されています。

③ 「帝国書院」は、

- ・全編を通して、85個の二次元コードが付され、巻頭6ページ下段の「④QRコンテンツの活用」のように、教科書内の二次元コードを読み取るとどのような活用の仕方ができるか促しています。
- ・QRコンテンツのトップ画面では、写真で眺める、学習を振り返ろう、図解アニメーションなど、多種多様なコンテンツが分類されており、生徒が個別最適な学びを進めるうえで扱いやすいようよく配慮されています。
- ・例えばこちらの29ページの中段、「技能をみがく」コーナーに位置付けられた二次元コードを読み

取ると、温帯や亜寒帯を例に挙げ、動画により雨温図の読み取り方について解説してくれます。

④ 「日本文教出版」は、

- ・全編を通して、153個の二次元コードが付され、巻頭8ページ下段の「教科書 QR コンテンツ—ICTを活用した学習—」のように、二次元コードを読みとることで主にポートフォリオ、イントロダクションムービー、確認小テストといった3つのコンテンツが設定されています。
- ・28ページ中段にあるように、全ての単位時間に学習課題と併せて二次元コードが位置付けられ、先ほど紹介した3種のコンテンツにつながるように配慮されています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。
- ・生徒が地理的な見方・考え方を働かせ、どう認識を広げ深めていくのか、また、単元全体を通して生徒自らがどのように「主体的・対話的で、深い学び」を展開していくか、さらには、タブレット端末をより効果的に活用し「個別最適な学び」や「協働的な学び」をどう展開していくかは、今後の地理的分野における大切な課題です。
- ・以上から、各者の特徴を検討した結果、「東京書籍」と「帝国書院」の2者が美濃地区にとってより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点1-(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」から調査した結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・ヨーロッパ州の学習では、第1時に78、79ページの見開きの写真等を用いてヨーロッパ州を概観し、ヨーロッパ州で学んでいくことの見通しをもつことができます。さらに80、81ページの見開きで地図や写真、読み物資料を用いて単元での探究の視点を持ち、単元の探究課題（岐阜県では単元を貫く課題）を生徒が主体的に見出す工夫がされています。
- ・各単位時間では、82、83ページのように、導入資料、学習課題、本文の学習内容とそれを補う諸資料、1時間の振り返りとなるチェック、トライといった紙面の構成となっており学習の流れが見える化されています。
- ・単元後のまとめの活動では、88、89ページのように、単元の探究課題を軸にしながら、三観点を明示した振り返りや89ページ中段の「みんなでチャレンジ」にあるような、仲間と一緒に考えたり、個で学びを進めたりするような問いがバランスよく配置され、主体的・対話的で深い学びを促すために大変よく配慮されています。

② 「帝国書院」は、

- ・ヨーロッパ州の学習では、第1時に64、65ページの見開きの写真と地図で概観し、右下の「学習を見通そう」に記載されたような地域的特色を見出すための文章が示され、66、67ページの自然環境を学ぶ構成になっています。
- ・各単位時間では、70、71ページのように、学習課題のとなりに節の問い（いわゆる単元の課題）が位置付けられ、常に節の問いに立ち返ることができるとともに、導入資料、学習課題、本文の学習内容とそれを補う諸資料、1時間の振り返りとなる確認しよう、説明しようといった紙面の構成となっており学習の流れが見える化されています。

- ・単元後のまとめの活動では、78、79ページのように、節の問いを軸にしながら、三観点を明示した振り返りや79ページ下段の「対話マーク」にあるような話し合う問いが配置され、主体的・対話的で深い学びを促す配慮がされています。
- ・以上、着眼点1-(3)から見て、教科書を活用する生徒の思考の流れを大切に、生徒自ら考える場、仲間とともに考える場をバランスよく配置された「東京書籍」が生徒にとって、大変よく配慮されたものであると考えます。また、「東京書籍」の教科書は全者の中で、教科書のページ数が最も少なく、重量も最も軽くなっています。教科書や学習用端末を持ち、家庭と学校を行き来する際の生徒の負担といった視点でも大きな軽減になると考えました。
- ・以上が調査研究報告となります。なお教科書展示会において、
 - ・教育出版は生徒が主体的に学び、考える項目がたくさんあり見やすい。
 という意見がありました。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・指導の方向性についてよくわかりました。若手教諭の指導力が懸念されるということがありましたが、そこに関わり提示する資料が非常に重要です。教師が資料を提示という視点になったときに、東京書籍がよいと思う理由について説明してください。

【答申者】

- ・ヨーロッパ州を例にあげると東京書籍78ページからになります。78ページから81ページが一単位時間となり、単元の課題を見いだす時間となります。写真資料、文章資料、地図に合わせて気候や地形などが総合的に示されています。その中で、生徒が着目するとよい視点が明記されているため、生徒の思考の流れがつかみやすい構成となっています。帝国書院もそういった配慮はされていますが、64、65ページを見ていただくと写真資料と地図資料が多く、文章資料があまり載っていません。生徒の思考の流れの中で、生徒の思考を引き出すことを考えると、東京書籍のほうが指導しやすいのではないかと考えます。

【委員】

- ・2者のよさはわかりました。二次元コードの数の160と85の数の違い以外について、内容のよさがあれば教えてください。

【答申者】

- ・二次元コードを読み取ると、単元全体が見えるようなページになります。そこから細分化されていきます。2者については、生徒が使うことを考えると動画や資料、振り返りシート、単元テストなどどちらも扱いやすいです。

【委員】

- ・ヨーロッパのところを見ました。78、79ページのように今後どのような学習が展開されるのかについて意図をもった写真が示されているので、生徒が見通しをもちやすいつくりになっていると思います。
- ・主体的で対話的な学びに関わって、話し合い活動やグループ活動を通して、学びを深めていくことが

大切だと考えます。東京書籍は、その点についてわかりやすく示されているのではないかと思います。

【委員】

- ・ 2者とも地図を作成している会社です。資料はどちらも素晴らしいです。東京書籍は、学ぶ意図やヒントがわかりやすいです。見開きの巻頭を比べる、帝国書籍は17の課題が書かれています。東京書籍は、「持続可能な社会の実現に向けて」という大きなテーマがあり、そこから環境、防災などにつながるようになっているので、生徒が興味・関心をもてるような仕組みになっているところがよいと思います。

【司会】

- ・ 今の答申のなかで、それを受けて質問・検討を進めて参りました。その結果から、東京書籍を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・ 拍手多数で、この件は承認されました。

社会科（歴史的分野）

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・中学校社会科歴史的分野では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画、県の方針と重点などに基づき、資料のようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における社会科歴史的分野の指導においては、自ら課題意識をもち、解決に向けて主体的に学びに向かっていくことや、歴史的な見方・考え方を働かせながら課題解決できるようにすること、そして、自らの学びを調整したり、仲間とともに学び合うことで考えを深めたりすることができるようにすることが課題として挙げられます。
- ・これらの課題と関連がある着眼点1（3）・着眼点2（1）の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・『着眼点1（3）「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」』『着眼点2（1）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』について、9者すべての調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・単位時間において、見開きごとの左ページに「学習課題」を示し、資料を読み取る視点を示しながら追究することで、課題解決を図っています。また、単位時間で学んだことを「チェック」で確認し、「トライ」で学習課題に対するまとめを表現する活動が取り入れられています。
- ・「個別最適な学び」が進められるよう、136個の二次元コードがあり、小学校で学習した内容が想起できるための導入クリップやNHK for school を中心とした動画をまとめたD-MOVE、教科書の資料を拡大して読み取ることができるようにしたD-ZOOMがあります。

② 「教育出版」は、

- ・各単位時間を見開きにまとめてあり、問いから導いた「学習課題」が設定されています。また、学習後には「確認」と「表現」という活動があり、問いについて振り返ることのできる構造となっています。
- ・節ごとに、最終ページには「節をとらえる」という項目が位置付けられており、キーワードを生徒自ら選択して時代の特色をまとめる活動となっています。

③ 「帝国書院」は、

- ・主体的な学びを促すために、単位時間において、問いから導いた「学習課題」が示され、本文や資料から追究させる構成となっています。
- ・個別最適な学びを進めるために、単位時間ごとに、「確認しよう」では重要事項を書かせる活動を取り入れています。また、「説明しよう」では、理由・特徴・背景・関係などの視点をもたせて、説明させる活動を取り入れています。

- ④ 「山川出版」は、
- ・主体的な学びを促すために、単位時間ごとに、見開きの最初に学習課題を設け、課題追究に関わって考えさせたい発問が「Q」で取り上げられています。
 - ・また、個別最適な学びを進めるために、前述の「Q」が思考を補助する手助けとなっています。「ステップアップ」では、理由・変化・目的・影響等の視点を与え、深い学びを促しています。
- ⑤ 「日本文教出版」は、
- ・単位時間ごとに、問いから導いた「学習課題」と「確認」「探究」が提示されており、単位時間で何を学んでいくのかの見通しをもたせることができます。また、あわせて「見方・考え方」も提示されており、学習課題の解決に向けて手掛かりになる見方・考え方が明らかになっています。
 - ・学びを広げ、発展的な学習を進めるために、適宜、基本用語の解説が掲載されています。また、「人物コラム」や「歴史+α」といった、歴史を幅広く学ぶことができるような工夫がされています。
- ⑥ 「自由社」は、
- ・各単位時間を見開きにまとめてあり、タイトルの下部分には、その時間の学習の手掛かりとなる問いかけがされています。また、ページの終末には、「チャレンジ」という問題が設定されており、本時の内容の要点をまとめることができるよう工夫されています。
 - ・各章の中程に「もっと知りたいコラム」のページが位置付けられており、関心を持った歴史的事象をさらに詳しく、発展的に学ぶことができます。
- ⑦ 「育鵬社」は、
- ・単位時間ごとの「学習課題」と「節ごとの課題」、学習のまとめとして「確認」「探究」が提示してあり、課題解決に向けての本文・資料だけでなく、見方・考え方を働かせて学習を深めるコーナーや、資料を活用して情報を読み取ったり、まとめたりするコーナーを設け、主体的に学ぶことができる手助けとなっています。
 - ・歴史学習への興味・関心を引き出したり、知識・技能の習得をしするための工夫として、学習内容を深める「歴史ズームイン」や多角的な視点で歴史をとらえる「歴史ビュー」というページが随所に設けられています。
- ⑧ 「学び舎」は、
- ・見本本がなく、調査することができませんでした。
- ⑨ 「令和書籍」は、
- ・単元の導入で、「政治」「外交」「文化」「産業」の視点から、単元で学ぶ内容の学習課題を設定し、単元の概要をつかめるようにしています。
 - ・単位時間ごとに最初に学習課題を示し、本文や資料から自分に合ったものを選択して追究することで、課題解決を図る構成になっています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。美濃地区においては、自ら課題意識をもち、解決に向けて主体的に学びに向かっていくことや、歴史的な見方・考え方を働かせながら課題解決できるようにすること、そして、自らの学びを調整したり、仲間とともに学び合うことで考えを深めたりすることが課題となっています。
 - ・各者を比較したところ、多くの発行者において、単位時間における学習課題の設定から課題解決までの流れが見開きにまとめられ、概ね地区の課題に合っていると考えられますが、その中でも、学習課

題の設定から、歴史的な見方・考え方を働かせながら学びを深めることができるような工夫と、個別最適な学びを推進するデジタルコンテンツの充実が顕著な、「東京書籍」と「日本文教出版」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

・続いて、この2者を着眼点1（3）「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」と着眼点2（1）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、顕著な例を提示して比較します。

・着眼点1（3）についてです。

① 「東京書籍」は、

・主体的に学ぶ姿を生み出すために、各章の導入では、時代の特徴を小学校の学習とつながりをもたせながらつかませるような工夫がなされています。また、各章で追究していきたい「探究課題」を示すとともに、各節においても解決したい課題を「探究のステップ」として問いを設定しています。

・各節の問いに対しては、段階を追って、さまざまな思考ツールを用いながら思考を整理するまとめの活動も設定されており、全ての節が終了したところで、章で追究してきた探究課題が解決できるようなつくりになっています。

② 「日本文教出版」は、

・主体的に学ぶ姿を生み出すために、各編の導入で、時代の特徴を、前の編で学習した時代の資料と比較しながらつかませるような工夫がなされています。また、協働的な学びをしながら各編で追究していきたい問いと各節で追究していきたい問いを示しています。

・各編の終末では、これまで追究してきた、各節の問いの答えを整理し、編の問いの答えを導き出す構造となっており、単元を通して探究課題が解決できるようなつくりになっています。また、学習してきた時代の特色について話型を示しながらまとめさせることで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるつくりになっています。

・このように、両者ともこれまでも岐阜県の社会科学学習で大切にされてきた、内容のまとまりを見通して問いを設定することで、歴史的な見方・考え方を働かせる構造になっています。

・特に、東京書籍では、まとめの活動において、節ごとのまとめを丁寧に扱った上で、章の探究課題を解決する構成となっており、内容のまとまりという点でより配慮されています。

・また、

① 「東京書籍」では、

・歴史的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力を育む手立てとして、学習指導要領で取り扱われている内容A「歴史との対話」において、第1章で丁寧に取り扱われています。そこでは歴史をとらえるために働かせる見方・考え方について5点、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」として具体的で、多様な視点や内容を示し、丁寧に説明されています。そして、そこで示された視点が単位時間の追究の中で活用されるよう配置されています。教科書内でルーペや鉛筆のマークで示されているところがそれにあたりますが、ルーペマークは見方・考え方に関わる視点を、鉛筆マークは資料を読み取る着眼点を示しています。それにより、第1章で示された「見方・考え方」が、各章・各節で働かせることができるようになっていきます。

② 「日本文教出版」は、

- ・内容A「歴史との対話」において、第1編で取り扱われています。そこで歴史をとらえるために働かせる見方・考え方について4点、「時系列」「推移」「比較」「つながり」として具体的な視点や内容を示しています。そして、そこで示された視点について、毎時間の追究の中で活用されるよう、「見方・考え方」のコーナーとして、同じ位置に位置付けられています。それにより、第1編で示された「見方・考え方」が各章・各節で働かせることができるようになっています。
- ・両者とも歴史的な見方・考え方に関わる視点や内容を示していますが、東京書籍では、視点や内容を示したのち、その視点を活用した活動を取り入れることで今後に生かすことができるより丁寧な構成になっています。

・着眼点2(1)について、

① 「東京書籍」は、

- ・個別最適な学習と協働的な学習を進めるために、各章の導入・単位時間の中で、「みんなでチャレンジ」というコーナーが36か所、設けられています。また、基礎的・基本的な技能を活用して活動する「えんぴつマーク」のコーナーは、102か所、設けられています。ここでは、課題を追究していく際に、個人として考えをもつ視点を提示したり、仲間とともに話し合うテーマ等について、具体的に示したりしています。このことによって、対話的な学びを通して自己の考えを広げたり深めたりすることができるようになっています。

② 「日本文教出版」は、

- ・協働的な学習を進めるために、各編の導入・単位時間の中で、「学び合い」というコーナーが43か所、設けられています。また、資料を用いた活動を促すコーナーが42か所設けられています。ここでは、課題を追究していく際に、仲間とともに話し合い、学びを深めるための活動内容や、話し合いのテーマ等について、具体的に示したりしています。このことによって、対話的な学びを通して自己の考えを広げたり深めたりすることができるようになっています。
 - ・両者とも、個別で学習するにあたり、資料活用の視点を示していますが、東京書籍では、資料の読み取りの視点や内容を示すとともに、話し合い活動の着眼点を段階的に提示することで、より協働的な学習に取り組むことができるような、より丁寧な構成になっています。
 - ・以上の点で、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進めていくための手立てが東京書籍においてよく配慮されています。
 - ・以上が調査研究となります。なお教科書展示会において、
 - ・生徒が主体的に学ぶ、考える、調べる項目があり見やすくよい。偏った記述がなく教科書としてふさわしい。
 - ・第2次世界戦後の記述が少ない。太平洋戦争の記述について誤った記述や偏った思想の記述がみられ教科書としてふさわしくない。
 - ・天皇制についての記述が多く、現代につながる内容が少ない。また天皇賛美の内容があり、歴史の教科書として使用するにはふさわしくない。
 - ・共産主義を全体主義として同一視、断言しているなど誤った記述がみられる。
- というご意見がございました。これらは、今回の調査研究の2者に直接関わるものではございません。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・東京書籍については、小学校との関わりが示されていることがわかりました。日本文教出版は時代との関わりが示されていることがわかりました。歴史を学ぶにあたっては、関連性や関わりが大切であると考えます。2者について、関連性に関わって特色があれば教えてください。

【答申者】

- ・東京書籍は「東アジアの歴史の中での日本」という関連性の部分の記述がよく取り上げられています。

【委員】

- ・見方・考え方が示されていることがわかりました。東京書籍には思考ツールとして、くらげチャート、Xチャートがありますがそれ以外に扱われていますか。また、他の発行者において思考ツールは扱われていますか。

【答申者】

- ・思考ツールについては、東京書籍がよく扱われており特徴的です。思考ツールを示しながら考えをまとめていくという活動になっています。思考ツールの種類については、その他にもいくつか掲載されています。

【委員】

- ・小学校と中学校の歴史を比べると、小学校はそれぞれの時代を学び、中学校はそういった時代のつながりや関連性が大切になってきます。東京書籍、日本文教出版、帝国書院の3者は、年代の中でどの時代を学んでいるかがわかるものさしが教科書の左に示されています。日本文教出版は白黒なので見にくいです。東京書籍は、うすい緑色で時代の流れが示されていて、その中でどの時代を学習しているのが赤色で示されています。時代と時代の関連性やつながりがわかりやすいようにつくりになっていると思います。

【委員】

- ・これからは主体的・協働的で深い学びが大切になります。そういった学びには、「学び方」を身に付けることが必要になってきます。そういった視点から東京書籍は、最初のページに「学び方」に関わるものが掲載されており、きめ細やかに示されています。生徒が「学び方」を身に付け、個で学ぶ、仲間とともに学び、深い学びにつなげていく仕組みになっており、よくつくられていることを感じました。

【委員】

- ・東京書籍は、小学校の学習を最初に扱っていて、その部分がとてもよいと感じます。主体的な学びのためには、生徒が学んでみたいという気持ちをもたせることが大切です。小学校の学習から「もっとこういうことが勉強できるんだな」という思いをもつことが主体的な学びにつながります。日本文教出版よりも東京書籍のほうが、どのように探究を進めていくとよいのかということが具体的にきめ細かく示されているのでわかりやすいと感じました。

【司会】

- ・今の答申のなかで、それを受けて質問・検討を進めて参りました。その結果から、東京書籍を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

社会科（公民的分野）

【答申者】

1 答申者自己紹介

2 着眼点の説明

- ・中学校社会科公民的分野では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画などにに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における生徒のよさには、ICTを活用して学びを進めたり、仲間と意見を交流し合って考えを深めたりできることが挙げられます。
- ・一方、中学校社会科指導の課題として挙げられる1つ目は、社会的事象を自分事としてとらえ、自ら学習の課題をもちその解決に向けて、見方・考え方を働かせて、主体的に学習に取り組むことができる生徒が少ないことです。2つ目の課題として挙げられるのが、生徒が何を、どのように学び、何ができるようになったのか等、自身の学びの過程や変容を自覚し、次の学習につなげることができる生徒が少ないということです。
- ・これらの課題と関連がある『着眼点1の(1)資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成』『着眼点2の(2)生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価』の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・まず、着眼点1の(1)資質・能力の三つの柱をバランスよく育成についてです。美濃地区の生徒の課題として主体的に学習に取り組むことに弱さがあります。そこで、より生徒が社会事象に興味・関心をもち、その解決に向けて見方・考え方を働かせて取り組めるようになっていくのかについて調査しました。このことについて、6者すべての調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・憲法について学ぶ章の導入では、「ちがいのちがい」というカードを提示し、あつてよいか、あつてはならないかを判断する活動を通して、生徒に興味・関心と学びの見通しをもたせるとともに、ページの上部に虫眼鏡のマークと「効率と公正」と表し、この章で働かせる見方・考え方を示しています。
- ・「スキルアップ～広告について考えよう」のように、資料を読み取る基礎的・基本的な技能を身に付けるためのコーナーが位置付けられています。こうしたコーナーは9つありました。

② 「教育出版」は、

- ・章の導入では、ウォーミングアップ公民として問題点を考えさせる活動を通して生徒に興味・関心と学びの見通しをもたせるとともに、ページの下部にこの章で働かせる見方・考え方を示しています。
- ・また、公民の技のコーナーを設け、学習で身に付けたい技能や表現力を養うことができるようにしています。こうしたコーナーは9つありました。

③ 「帝国書院」は、

- ・章の導入では、町のイラストの中から憲法との関わりや課題を見つけ出す活動をすることで、生徒の興味・関心を高めています。そして、ページ左下には、見方・考え方を働かせる資料や学習活動が位

置付けられています。

- ・「技能をみがく」のコーナーを設け、学習に必要な技能を習得するコラムを位置付けています。こうしたコーナーは6つありました。

④ 「日本文教出版」は、

- ・章の導入では、マンガの中から人権に関わる内容を出し合い話し合うことで、生徒に興味・関心を高めています。そして、本時に働かせる見方・考え方が毎時間示されています。
- ・「情報スキルアップ」のコーナーを設け、情報の読み取りや活用に必要な知識・技能を習得することができるようにしています。こうしたコーナーは2つありました。

⑤ 「自由社」は、

- ・章の導入では、イラスト共に、この章で学ぶことをメッセージとして問いかけ、生徒が取り組めるようにしています。
- ・「課題の探求」のコーナーを位置付け、レポートやディベートの技能を身に付けられるようにしています。こうしたコーナーは2つありました。

⑥ 「育鵬社」は、

- ・章の導入では、憲法条文をカードで示し、それぞれの課題も示すことで、生徒に興味・関心と学びの見通しをもたせるとともに、この時間で働かせる見方・考え方を示しています。
 - ・「資料活用」として、資料活用能力を高める取組例を挙げています。
- ・2点目の着眼点2の(2)生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価についてです。生徒の資質・能力を育成していくためには、どんな力が身に付いたかという学習の成果を捉え教師が指導改善を図ると共に、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習にむかえることができるようにすることが大切です。そこで、一単位時間や各章の終末における学習評価の示し方について、同じく6者すべての調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・学習のページの下部には、1時間の学習内容をまとめる「チェック&トライ」を設けており、学習課題に関わる知識・技能、意義、理由などをまとめられるようにしています。章の終末には、4ページにわたり「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」という評価の観点に対応させながら「まとめの活動」に取り組めるようにしています。「確かめよう」は学習した言葉の確認と表にまとめることで知識・技能の確認を行います。「振り返ろう」では、単元を通した課題解決をまとめることで「主体的に学習に取り組む態度」を見取ります。「深めよう」では、資料を活用し、個人や協働での学びを通して思考・判断・表現の力を身に付けることができるようになっています。

② 「教育出版」は、

- ・学習のページの右下には、1時間の学習内容をまとめる「確認と表現」を設けており、学習課題や考えをまとめられるようになっています。章の終末には、3ページにわたり、HOP、STEP、JUNPとして「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」という評価の観点に対応させたコーナーが位置付けられています。HOPでは学習したことを振り返ることで、知識・技能の習得を図ります。STEPでは、表や思考ツールを活用して章の問いについて考えまとめることで、思考、判断、表現の力を身に付けていきます。JUNPではSDGsとつなげて自分にできることを考えることで、学びに向かう力を見取ります。

③ 「帝国書院」は、

- ・学習のページの右下には、1時間の学習内容をまとめる「確認しようと説明しよう」を設けており、学習課題や考えをまとめられるようになっていきます。章の終末には4ページにわたり、節の問いや章の問いを段階的に振り返りまとめる学習活動を示しています。これにより、知識・技能や思考・判断・表現の力を身に付けていきます。またこのページのように、章の学習を振り返り、気になった学習内容や事例を挙げることで、主体的に学習に取り組む態度を育てています。

④ 「日本文教出版」は、

- ・学習のページの右下には、1時間の学習内容をまとめる「確認と表現」を設けており、学習課題や考えをまとめられるようになっていきます。各章の終末には、2ページにわたり、3つの観点で振り返られるコーナーがあります。「語句の意味を確認しよう」では、単元で学習した内容について語句を整理し、意味を説明することで知識・技能の習得を図ります。「章の問いに答えよう」では、章の問いについて、表を使ってまとめることで思考・判断・表現の力を身に付けることができます。「章の学習を振り返ろう」では、章を始める前と比較してこれまでの学習を振り返ることで、自らの学びを調整できるようにしています。

⑤ 「自由社」は、

- ・学習のページの右側には、1時間の学習内容をまとめたり考えたりする「やってみよう」を設けています。また、ここがポイントでは、重要な言葉を説明しています。各章の終末には「学習のまとめと発展」のコーナーがあり、重要語句の確認後、提示されている課題を各自選択し、字数制限に従ってまとめる活動を位置付けています。

⑥ 「育鵬社」は、

- ・学習のページの右下には、1時間の学習内容をまとめる「確認と探究」を設けており、学習課題や考えをまとめられるようになっていきます。各章の終末には3ページにわたり、「○○のこれから」のコーナーがあります。「経済のこれから」では、これまで学んできたことを生かしてテーマについてまとめる活動を示しています。「学習のまとめ」では、重要語句を確認して学習内容の定着を確かめたり、章の学習を振り返ったりできるようにしています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「主体的に学習に取り組むこと」「自らの学びを確認し次の学習につなげること」に課題がある美濃地区については、生徒が興味・関心をもち続けて調べたり考えたりし、さらに学習後に知識・技能や思考・判断・表現の力を身に付けたり、振り返って次の学習につなげたりする学びができるようにすることが重要となります。
- ・このように考えると、生徒が社会的事象との出会いにより興味・関心をもち、自ら調べて解決していきたいという思いになる発行者、また、各単位時間や章の終末に自分の力を確かめたり高めたり振り返ったりできる発行者がよいと考えました。この2つ理由により、「東京書籍」と「帝国書院」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・この2者を同じく、着眼点1（1）「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成、着眼点2の（2）生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価、公民分野の目標である「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な公民的資質・能力

の基礎を育成」について、比較した結果を説明します。

・「政治への参加」について、2者を比較します

① 「帝国書院」は、

- ・導入資料において、2つの都道府県で1つの選挙区にしたという資料から疑問をもたせています。また、追究資料には、「写真」「絵図」を用い、選挙制度や投票の流れがわかるようにしています。さらに、YES、NOのコーナーがあり、課題に対する自分の考えをもつ場が設定されていることから、生徒が主体的に取り組めるように配慮されています。
- ・政治参加の一つである選挙について別のページでも取り上げ、「投票率」について考えられるようにしているなど、公民的資質の育成について配慮されています。

② 「東京書籍」は、

- ・導入資料において、現在の投票所の様子と歴史分野でも活用した帝国議会開設当初の様子を比較することで興味・関心を高めています。追究資料には、「グラフ」「写真」「絵図」のように、異なる資料を提示しています。また、比例代表制のドント方式の理解を深めるためにスキルアップコーナーを位置付けていることから、生徒が主体的に取り組めるよう、よく配慮されています。
 - ・政治参加の一つである選挙を大きく取り上げており、選挙の流れを確認できたり、「政治参加（投票率）」への意識を高められるようにしたりする構成となっていて公民的資質を育成できるようによく配慮されていると共に、すべてのページの左側中央付近に二次元コードが示され、映像を通して理解を深めたり、用語を確認したりできるようになっており、知識・技能を習得し、主体的に取り組めるようよく配慮されています。
- ・「日本国憲法」の章の学習のまとめにおける内容について2者を比較します。
- ・2者の「知識・技能」をまとめるページについて比較します。

① 「帝国書院」は、

- ・知識・技能と思考・判断・表現を整理するページとして「節の振り返り」があります。このページでは、この章で学習した重要語句を12個提示し、図に書き込んで知識・技能を整理できるようになっています。また、図で問いに対する理由や答えをまとめたりできるようになっており配慮されています。

② 「東京書籍」は、

- ・知識・技能を整理するページとして「確かめよう」があります。このページには、この章で学習した重要語句が40個示され充実しています。その重要語句を図の空欄に書き込むことで知識・技能を整理できるようになっているとともに、章の全体像としてまとめられるようになっており、よく配慮されています。
- ・次に、2者の「思考・判断・表現」の力を身に付けるページについて比較します。

① 「帝国書院」は、

- ・思考・判断・表現の力を身に付けるページとして「章の振り返り」があります。ここでは、章の導入で扱った資料を基に振り返ったり、章の答えを、ステップ1ステップ2というように、ステップを踏んでまとめたりして、思考・判断・表現の力を身に付けられるように配慮されています。

② 「東京書籍」は、

- ・生徒に思考・判断・表現の力を身に付けるために「深めよう」が2ページにわたってあります。章の導入で示された3枚のカードについて、日本国憲法を根拠に考えをまとめるようになっています。また、「みんなでチャレンジ」のコーナーで示されているように、個人追究の場と協働的に活動する場が設定されているなど大変よく配慮されています。
- ・最後に、2者の「主体的な学び」のページについて比較します。
 - ① 「帝国書院」は、
 - ・主体的な学びのページとして「探究学習への準備」があります。ここでは、章で学習した、生徒の気になった事例をSDGsや自分の住む地域の視点で振り返って取り組めるようになっています。また、整理したことを仲間と交流して表にまとめるようになっており、主体的な学びにつながるよう配慮されています。
 - ② 「東京書籍」は、
 - ・主体的な学びのページとして「振り返ろう」があります。ここでは、章の導入で示されたカードを使い、カード1とカード4を比較し、カードのどちらの事例がよいか、カードを選択して理由を考えたり、カード5や8の事例について、「誰のどのような権利」という視点で考えたりするなど、生徒が取り組みやすく、どの生徒でも一人で学び進められる内容となっており、主体的な学びとなるように、大変よく配慮されています。
- ・以上が調査研究となります。なお教科書展示会において、
 - ・育鵬社は、日本の国民性をひとまめに美化しているのではいかなものかと思いました。
 - ・教育出版は、子どもたちが主体的に学べる、考える、調べる項目がたくさんありよいと思います。
 - ・自由社の文章に句読点が少なく理解しにくい。「障害年金」の記述が「20才以上の病気やけがの人」ではないでしょうか。
 - ・家族のとらえが、まだ現代にマッチしていない。
 という意見がありました。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・公民において、生徒が自分事として考えることが大切だと考えます。東京書籍8ページでは、すべて「～する中学生」という言葉になっており、主体が中学生となっています。著作者の欄を見ると、東京書籍はたくさんの著作者が掲載されています。その中には、現場の先生も多く入っていることがわかり、生徒が主体になっているという一つになっているのではないかと思います。そういった点で東京書籍が優れていると感じました。

【委員】

- ・学習の振り返りについて、東京書籍と帝国書院を比べると、東京書籍の方は自分が理解できているかどうかという振り返りがあります。また、二次元コードを見るとコンテンツの量・質ともに充実しています。これを使えば自分に合った家庭学習を進めていくことができると感じました。

【答申者】

- ・二次元コードの関わることになるとは思いますが、教科書のページ数や重さを見たときに、東京書籍はペ

ージ数が少なく、軽くなっています。二次元コードによるコンテンツの充実が教科書の重さの軽減につながっていると思います。

【委員】

- ・東京書籍は、各ページの同じ場所に二次元コードがあるので、同じ学び方ができるのでわかりやすいです。歴史的分野や地理的分野と同じ学び方になり、一貫した学び方になるところで生徒にとってわかりやすいのではないかと思います。

【司会】

- ・今の答申のなかで、それを受けて質問・検討を進めて参りました。その結果から、東京書籍を採択することが望ましいという方向だと思われれます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思えます。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

社会科（地図）

1 答申者自己紹介

2 着眼点の説明

- ・社会科地図では、2者の発行者について、学習指導要領や第4次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点など、すべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・掲載している地図や資料について、世界地図、日本地図、主題図等、学習指導要領の示す学習内容を指導するのにどちらの発行者も十分な情報内容と考えます。
- ・県教育振興基本計画のいう「生徒の学習改善」に資する点からは、資料を提示しながら、次のような「問い」をなげかけています。
 - ・東京書籍 は、
自然災害の例を絵や写真で示し、「みんなの身の周りで起こる確率が高い自然災害はどれか考えてみよう。」とキャラクターが学びを深める問いをなげかけています。
 - ・帝国書院は、
飢餓、食品ロスに関わる資料の示し、「食品ロスを解決するために、自分たちができることを調べたり考えたりしよう」と「地図で発見！」という囲いを設けて問いをなげかけています。
- ・両者とも、自分たちの生活との関連から学びを深めるための工夫がなされています。
- ・印刷製本については、
 - ・「東京書籍」は、176ページ、540g。「帝国書院」は、198ページ、510gです。
 - ・フォントはUD、文字に縁取り、配色明るくめりはりのある色彩、色覚特性に配慮されています。
 - ・レイアウトでは見開き示し全体像をわかりやすくする等の配慮がどちらもなされています。

4 調査研究結果の比較

- ・美濃地区における社会科地図指導においては、「地図帳の基本的な使い方、地図からさまざまな情報を読み取り、それを活用する力」を身に付けさせることが課題ととらえています。
- ・これらの課題と関連がある着眼点1（1）から説明をします。
 - ・両者とも、教科書に掲載されている地名や、社会的事象の原因等を調べるための資料等十分な分量と考えます。
 - ・現行教科書の地理分野「中部地方」に記載がある地名約60か所を「索引」で場所を調べ、それぞれ「中部地方」の地図にプロットしました。どちらもすべて地図に地名は掲載されていました。
 - ・地名を索引で見つける作業のタイムを測定しました。調査員2名で行った平均です。東京書籍は、12分53秒 帝国書院 12分13秒 でした。2名とも帝国書院の方が短い時間で地名を見つけることができました。帝国書院の方が早く索引で地名が見つけれられたのは、頭文字を探しやすかったこと、文字のポイントが大きいことが挙げられます。
 - ・索引に掲載されている地名数です。東京書籍は、日本の地名2231、世界の地名1359、帝国書

院は、日本の地名 2573、世界の地名 1810 でした。

- ・令和 8 年に中部縦貫道がいよいよ北陸から美濃につながります。帝国書院では、「中部縦貫道」の高速道路、インターチェンジが「中部地方」の地図に記されていますが、東京書籍の同様のページには掲載されていません。帝国書院の方が新しい情報が反映されていることがわかります。統計資料をみると、2022 年、2023 年の全体の資料に占める割合は、東京書籍が 14%、帝国書院が 26% と、帝国書院が新しい情報を多く掲載しています。
- ・地図帳は、地名等の索引をしてその場所を確認すること、日本世界の各地の様相をさまざまな統計資料等からつかむことが、本質的な役割です。
- ・以上のことから、
- ・「東京書籍」は、地図、資料等が学習に十分な量が掲載されており、地図帳の基本的な使い方、地図からさまざまな情報を読み取り、それを活用する力を育むために配慮されています。
- ・「帝国書院」は、地図、資料等が学習に十分な量と新しい情報が掲載されており、地図帳の基本的な使い方、地図からさまざまな情報を読み取り、それを活用する力を育むためによく配慮されています。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・インターネットと書籍と比べたとき、新しい情報はインターネットだと思います。しかし、教科書は多くの人が検閲を行ったものなので、確かな情報だといえます。帝国書院は 198 ページ、510 g、東京書籍は 176 ページ、540 g です。ページが多いのに軽いのは、何か理由があるのでしょうか。

【委員】

- ・紙の質によるものではないでしょうか。

【委員】

- ・郡上、美濃、関を中心にみました。帝国書院は、関市には刃物、美濃市には和紙、郡上市にはカモンカやオオサンショウウオが図と文字で書かれているのでわかりやすいです。東京書籍は、きっと刃物だろうなといえるのですが、誰が見てもすぐにわかるかという点では難しいです。ふるさとを学ぶという観点から考えると、帝国書院は誰が見てもすぐにわかる点について非常によいと思います。

【委員】

- ・どちらも同じような構成になっていますが、帝国書院の方が、地図の色合いがうすいために地図上に書かれている文字が判別しやすいです。生徒にとっても見やすいのではないかと思います。

【委員】

- ・帝国書院は、索引が見やすく、生徒が使いやすいのではないかと思います。また帝国書院は、「地図で考える～」があります。地図は場所を知るだけのものではなく、地図を通してどんなことがわかるのかという視点があるところがよいと感じました。

【委員】

- ・同緯度、同縮尺で位置が違うのはなぜですか。

【答申者】

- ・図法や手法によって、若干の違いがでてきます。

【司会者】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、帝国書院を採択することがのぞましいという方向だと思われれます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと
思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

数学

【答申者】

1 答申者自己紹介

2 着眼点の説明

- ・数学科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における数学科指導の課題は、数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することに弱さがあることです。
- ・これらの課題と関連がある「着眼点1 各教科・各学年相互間の関連・系統性、発展性」「着眼点2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・『「着眼点1 各教科・各学年相互間の関連・系統性、発展性」の1次関数の性質と調べ方を学ぶ場面における既習である比例の扱いについて』『「着眼点2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の教科書の示す単位時間の構成・第2学年「連立方程式」で連立方程式の解き方を学ぶ場面の取り扱いについて』7者すべての調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・第2学年の「1次関数」において、章の初めに1年生の比例・反比例の学習を生かして調べることを示し、章の中頃で比例との共通点や相違点を調べるようにしています。
- ・単位時間の構成を、「問題をつかむ→見通しをたてる→問題を解決する（自分でかんがえてみよう→友だちの考えを知ろう→話し合ってみよう）→振り返る→深める」とし、教科書の冒頭で示しています。第2学年「連立方程式の解き方」では、「図を使って考えてみましょう」という記述があり、方法の見通しをもって取り組めるようにしています。また、生徒自身で学習が進められるよう、二次元コードから図の意味を補完するシミュレーションが見られるようにしています。

② 「大日本図書」は、

- ・第2学年の「1次関数」において、第1時で比例と1次関数の両方を扱い、共通点や相違点を調べたあと、学習を進めるようにしています。
- ・単位時間の構成を、「問題を見いだそう→解決のしかたを探ろう→解決しよう→深めよう」とし、教科書の冒頭で示しています。第2学年「連立方程式の解き方」では、教科書に出てくる中学生の考えとして、図を用いた方法を示し、方法の見通しがもてるようにしています。また、加減法と代入法の2つの考えを示し、どちらの考え方からでも生徒自身が選択して学習を進めるようにしています。

③ 「学校図書」は、

- ・第2学年「1次関数」において、単元に入る前に比例と反比例について振り返るページを位置付け、学習を始めるようにしています。
- ・単位時間の構成を、「問題発見！→問題を考えよう！→まとめよう！→次の問題発見！」とし、教科書の冒頭で示しています。第2学年「連立方程式の解き方」では、登場人物の図を使った考え方を示

し、方法の見直しをもって取り組めるようにしています。また、生徒自身で学習が進められるよう、二次元コードから図の意味を補完するアニメーションが見られるようにしています。

④ 「教育出版」は、

- ・第2学年「1次関数」において、単元に入る前に比例と反比例について確かめる問題ページを位置付け、その後、学習を始めるようにしています。
- ・単位時間の構成を、「問題を見いだす→問題をつかむ→見直しを立てる→問題を解決する→振り返る→深める」とし、教科書の冒頭で示しています。第2学年「連立方程式の解き方」では、登場人物の吹き出しで、式の関係を図で示しており、解決の見直しをもって取り組めるようにしています。また、既習である1次方程式を解く手順が載っているページを示し、生徒自身がつまずきを克服できるようにしています。

⑤ 「啓林館」は、

- ・第2学年「1次関数」では、第1時で比例と1次関数を扱い、比例や反比例ではない関数について学ぶことを示した後、学習を始めるようにしています。
- ・単位時間の構成を、「問題を発見→状況を整理し、問題を設定→解決の見直しを立てて、問題を解決→問題解決の過程を振り返り、問題を深める」とし、教科書の冒頭で示しています。第2学年「連立方程式の解き方」では、問題場面と式をつなぐ図を示し、解決の見直しをもって取り組めるようにしています。また、生徒自身で学習が進められるよう、二次元コードから図と式をつなぐアニメーションが見られるようにしています。

⑥ 「数研出版」は、

- ・第2学年「1次関数」において、単元に入る前に比例と反比例について振り返るページを位置付け、その後、学習を始めるようにしています。
- ・単位時間の構成を、「数学的活動→めあて→学習内容の理解→練習→まとめ→学びのふりかえり」とし、主な場面をマークで示しています。第2学年「連立方程式の解き方」では、問題場面を図で示し、解決の見直しをもって取り組めるようにしています。また、生徒自身で学習が進められるよう、式での説明と図を使つての説明を並べ、対応させて考えられるようにしています。

⑦ 「日本文教出版」は、

- ・第2学年「1次関数」において、単元に入る前に比例と反比例について確かめる問題ページを位置付け、その後、学習を始めるようにしています。
- ・単位時間の構成を、「問題→見直しをもとう→めあて→考えよう→話し合おう→ふり返ろう→深めよう」とし、教科書の冒頭で示しています。第2学年「連立方程式の解き方」では、生徒自身で学習が進められるよう、キャラクターの吹き出しで「文字を1つ減らせば既習の方程式になる」という見方・考え方を示しています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること」に課題がある美濃地区については、生徒が「自立的・協働的」に問題解決できるようにすることが重要となります。
- ・よって、「啓林館」と「東京書籍」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

・続いて、この2者を「着眼点2主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善より比較します。第2学年の図形の性質を利用した証明の学習について、1点を共有する2つの正三角形において成り立つ性質を証明する場面について、比較した結果を説明します。

① 「啓林館」は、

- ・登場人物の会話で $AE = DB$ がいつでもいえそうだと示し、「これまでに学んだ図形の性質を利用して証明しましょう」と促しています。二次元コードからは、点Cを移動させて確認するシミュレーションを見ることができるようになっています。
- ・問題を設定した後は、証明の見通しを示し、生徒が自ら証明を行うことができるようにしています。
- ・証明が終わった後、登場人物が「点Cは線分AB上にあるという仮定を変えても、 $AE = DB$ がいえるか」、また、「正三角形ではなく、正方形にした場合はどうなるか」など、新たな問いを示し、教科書にある図とともに場面を想起させるようにしています。その後、「このときにも、 $AE = DB$ は成り立つでしょうか。」と新たな問題を示し、キャラクターが「前ページの証明とどこが変わるかな」と吹き出しで話し、前ページの証明をもとに考えるように促しています。
- ・生徒の学習が、主体的・対話的で深い学びとなるよう配慮されています。

② 「東京書籍」は、

- ・ページの右端に、「問題をつかむ→見通しを立てる→自分で考えてみよう→問題を解決する→振り返る→深める」と単位時間の流れを示し、生徒自身で学習が進められるようにしています。
- ・問題を示した後は、まず「わかることを書き出してみましょう。」と生徒自身に考えさせる問いがなされています。その後、キャラクターの吹き出しで「何がいえればよいか」と生徒自らに見通しをもたせる記述がなされています。二次元コードからは、自分の考えや仲間の考えを記述することができるワークシートや証明を組み立てることができるツールを使用することができるようになっています。
- ・証明が終わった後、「証明を振り返って、3点A、B、Cが一直線上にあることを使っているか」と視点を示し、教科書にある図とともに「 $\triangle BCE$ を点Bを中心として回転させても、 $AE = DC$ が成り立つか」「正三角形を正方形に代えた時、 $AG = DC$ が成り立つか」と新たに問いかけ、生徒に考えさせています。また、二次元コードからは、シミュレーションで実際に図を動かして考えることができるようにしています。最後には「証明を振り返って新たなことがらを見いだす」という大切にしたい見方・考え方が示してあります。
- ・生徒の学習が、主体的・対話的で深い学びとなるようよく配慮されています。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、
 - ・二次元コードが多すぎる。
 - ・東京書籍と大日本図書は見やすい。
 - ・大日本図書は、10年間同じものを使うことになるので問題ではないか。という意見がありました。

【司会】

・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

・東京書籍の2年生80、81ページ、啓林館2年生84、85ページを比べたとき、東京書籍の81ページの最後の問題は、「グラフが平行になるため解がない」という答えになります。啓林館は、「解がない」という答えになる問題はありません。そういったことから東京書籍は、数学的な深まりまで求めていることがわかります。

【委員】

・数学は、生徒が自分で学習を進める場面があり、そういう授業を行っていることを最近よく聞きます。わからない子が一斉授業で学び、自分で学習を進め、自分で練習問題を行うことができるようになることを考えたとき、例えば、連立方程式では、代入法や加減法という考え方が必要になってきます。その順番や思考の流れというような部分で配慮されているなどの違いはあるのでしょうか。

【答申者】

・啓林館は、「例題→練習問題、例題→練習問題」と細かく進めているようなつくりになっています。東京書籍は、「例題→練習問題→類似問題」となっています。東京書籍の方は、思考する時間や論理的に考える時間を確保するようにつくりになっているといえます。

【委員】

・1年教科書の最初の部分についてです。配列についてなのでいろいろな考え方があると思いますが啓林館は、正の数、負の数、東京書籍は整数の性質となっています。どちらかというとなら東京書籍の方が、これまでの学習してきたことに関わることを学習してから正の数、負の数に入るという流れになっており、生徒にとってわかりやすい仕組みになっているのではないかと思います。

【答申者】

・東京書籍は、系統性をよく配慮されていることがわかります。扉絵には、これまでの学習が位置付けられています。巻末についても「もっと数学につなげよう」となっていて、「つなぐこと」を重視していることがわかります。

【委員】

・東京書籍2年生152ページに、「大切にしたい見方・考え方」にあるように、おさえないことをしっかり明記しているところがよいと思いました。

【委員】

・啓林館は、二次元コードの中に練習問題が入っています。東京書籍は、二次元コードの中に練習問題はありません。東京書籍は、授業で使えるコンテンツが充実しているということですか。

【答申者】

・東京書籍は、フラッシュカードが入っています。フラッシュカードで基礎・基本の問題を繰り返し行うことができます。数学においては、シミュレーションがあることが有効です。立体においては、三角柱や三角錐などをつくるのが難しいが、3Dで見ることができる点で東京書籍はよいと考えます。

【委員】

・二次元コード数が圧倒的に多いという部分に加え、三角形の学習を考えると、東京書籍のほうが生徒の学習活動や思考の流れにリンクしたシートに出てきます。そういった点で考えると東京書籍がよいと思います。また、立体について学習することに関わって、東京書籍は巻末に切りとりシートがあるので

充実していることがわかります。

【司会者】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、東京書籍を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思ひます。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

理科

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・理科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などにに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果意見書にまとめました。
- ・美濃地区における理科指導の課題は、「探究活動全体を主体的に取り組み、自身の力で主体的に解決していく個々の力を高める」ことです。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・これらの課題と関連がある、着眼点1（3）「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」、着眼点2（1）「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について、5者すべての発行者を調査しましたので、その調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・探究の流れを追いやすくなっていること、見方・考え方の観点をキャラクターのセリフとして掲載されていることなど、深い学びにつながるように、よく配慮がされています。
- ・考えを深める場面を取り扱う紙面では、異なった考えをもっている生徒が、それぞれの意見を発表しているイラストが掲載され、個別最適な学びと協働的な学びが具体的に示されています。

② 「大日本図書」は、

- ・課題が示されているページに「話し合おう」マークが示され、話し合っているイラストに具体的な考えが記述されているため、予想を立てる段階での対話的学習がわかりやすく進められるようになっています。
- ・例題や巻末問題が多く自学自習における個別最適な学びのサポートや、「探究マーク」のところでキャラクターが対話を促し協働的に進められるようにする配慮がされています。

③ 「学校図書」は、

- ・「理路整然」のコーナーで見方・考え方を意識するような説明がされており、深い学びにつながるように構成されています。
- ・内容についての説明が詳しく丁寧に記述されており、教科書を読むことで内容について理解できるような個別最適化についての配慮がされています。

④ 「教育出版」は、

- ・巻頭折り込みに「探究の進め方」がまとめられており、主体的な学習につながる学習の進め方が確認できるように、よく配慮がされています。
- ・二人の生徒が意見や疑問を話し合っているイラストが多く記載され、対話的な学び方を促す構成がされており、対話的で深い学びができるよう、よく配慮されています。

⑤ 「啓林館」は、

- ・「考えてみよう」や「発表してみよう」などの、考えを表現する活動の場面が設定され、主体的・対話的な学びへの配慮がされています。

- ・他の生徒の意見を参考に自分の考えを検討する場面が設定されており、自分の考えをあらかじめ書いてから話し合うことで主体的・対話的な学びが実現できるように構成されています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「主体的に探究すること」に課題がある美濃地区については、生徒が「見通しをもち、個に応じた自立した学び」ができるようにすることが重要となります。
- ・この点から、「東京書籍」と「教育出版」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・この2者について、まずは着眼点1-(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について、比較した結果を説明します。

- ・単元を見通して主体的に学習するためには、単元の入り方が重要になってきます。

① 「東京書籍」は、

- ・単元の学習が深い学びに主体的に向かうよう、よく配慮されています。例えば、3年「化学変化とイオン」では、まず、単元と関連するイオンを含む温泉の写真が掲載されています。そして、次のページには、小学校から学習した「電気分解の実験」「リトマス紙と酸・アルカリのこと」「電流の流れと電子の流れ」について簡潔にまとめられています。また、二次元コードから動画で確認ができます。
- ・このように、生徒が個に応じた選択できるようになっており、主体的に深い学びにつながるような配慮が、よく配慮されています。

② 「教育出版」は、

- ・見通しをもって学習に向かうよう、配慮されています。例えば、3年「化学変化とイオン」では、まず、自然の水の写真が掲載されており、単元を通して学んでいくことが示されています。そして、次のページには、二次元コードから「これまでの学習のおさらい」として既習内容を示した下学年の教科書ページを表示することができ、生徒が個に応じた既習事項を復習できる配慮がされています。

- ・協働的な学びに関する取り扱いについてです。

① 「東京書籍」は、

- ・楽しく協働的な学びをする中で思考を深めていけるよう、よく配慮されています。例えば、1年「動物の分類」では、二人一組で、それぞれがまとめた動物の特徴について、質問をし合うゲームを位置付けています。仲間とのゲームを通して、動物のからだの特徴に注目し、それらの共通点と相違点を理解していくことで、その後の分類表を作成する足掛かりを協働的に学べるよう、よく配慮されています。

② 「教育出版」は、

- ・話し合いによる協働的な学びをする中で思考を深めていけるよう、配慮されています。例えば、1年「動物の体の共通点と相違点」では、5種類の動物の特徴について話し合い、表にまとめていく活動を位置付けています。学級や班による協働的な学び合いを通して、分類表を作成する足掛かりを学べるよう、配慮されています。

- ・生活と結びつけたり、より発展的な内容に広げたりするような深い学びに関する内容についてです。

① 「東京書籍」は、

- ・全ての章末に「発展 | 高校」のコーナーがあり、主体的に深い学びに向かうよう、よく配慮されてい

ます。例えば、2年「電流と磁界」では、電流が磁界から力を受ける仕組みが解説されています。フレミングの左手の法則の紹介だけでなく、詳しい原理まで説明されていて、中学の学習指導要領の内容以上に興味をもった生徒にとって、理解をさらに深める手助けになります。

② 「教育出版」は、

- ・全ての章の途中に「発展、高校」のコーナーがあり、主体的に深い学びにつながるよう、配慮されています。
- ・例えば、2年「電流と磁界」では、フレミングの左手の法則の紹介がされており、興味をもった生徒がさらに詳しく調べたいと思える配慮がされています。
- ・次に、この2者を着眼点2-(1)「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について、比較した結果を説明します。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためには、個々が自身の探究ができ、多様な考えを出し合い解決に向かう過程が大切になります。

① 「東京書籍」は、

- ・実験を取り扱う場面において、個別最適な学びが可能となる実験方法ができ、協働的な学びにつながるよう、よく配慮されています。例えば、3年「地球と宇宙」「金星の満ち欠けについてのモデル実習」では、個人でも机上で探究できるコンパクトなモデル実験を位置付けています。一人一人がモデルを動かしながら実験できることで、個別最適な学びが保証されます。また、これにより生み出された多様な考えを出し合いことができ、「協働的な学び」の一体的な充実が図れるようになっています。

② 「教育出版」は、

- ・地球儀や電球を使って、空間的な広がりを実感しながら協力した学習につながるよう、配慮されています。例えば、3年「地球と宇宙」「金星の見え方を再現する」では、広い空間を使って複数人で協力して行う実験を位置付けています。グループで役割分担をしたり、実験をしながら個々のつぶやきを交流したりして、「協働的な学び」につながるようになっています。
- ・個別最適な学びの実現のためには、理科の場合、実験方法をどの子も理解し実施できるための配慮が大切になります。

① 「東京書籍」は、

- ・片開き1ページに、「目的→実験の方法」という流れが端的にまとめられ、記入欄も設けられています。例えば2年「電流と電圧の関係を調べる実験」では、結果の表を記入する欄が設けてあり、グラフや考察の記入は、各自のノートに記入するなど、個々で工夫できるよう配慮されています。

② 「教育出版」は、

- ・見開き2ページを使って「目的→準備→方法→結果」の流れで簡潔に大変見やすくまとめられています。また、記入欄も多く設けられています。例えば2年「電圧と流れる電流の大きさの関係を調べる実験」では、また、表、グラフ用紙、考察の記入欄など、直接、書き込めるようになっているため、個別最適な学びになるよう、よく配慮されています。
- ・理科では、疑問をもち、課題の解決のため実験を行い、その結果から結論を導き出すような進め方で学習していきます。教科書も生徒の思考の流れに沿ったつくりになっていることが、「個別最適な学習」につながります。

① 「東京書籍」は、

- ・課題に対する結論は、「自分の言葉でまとめよう」という表記になっており、そこには明記されていません。
- ・結論の例は、教科書の巻末に全章がまとめて記載されています。例えば1年生では、まず、生徒が学んだことをもとに自分の言葉で表現します。その後に巻末の例と比べ、自身で考えて内容を修正する学習ができます。また、結論を書くことが苦手な生徒は、巻末の例を参考にして結論の書き方を学習することができます。このように個々に合った学習が、即ち個別最適な学習が進められるように、よく配慮されています。

② 「教育出版」は、

- ・課題に対する結論が明確に記載されています。例えば1年「植物の体の共通点と相違点」では、課題が（アブラナやエンドウ、ツツジでは、花のつくりによどのような共通点と相違点があるだろうか。）と表記されています。これに対して結論は、（【共通する特徴】花の中心からめしべ、おしべ、花弁、がくの順についていて、めしべが1本である。【異なる特徴】おしべや花弁、がくの数にちがいがあり、花弁が1枚1枚離れているものと、一つにくっついているものがある。）と明確に記載されています。観察・実験から導き出す結論を教科書で確認できるように配慮されています。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・東京書籍の導入部分に二次元コードがあり、それを使うことで興味・関心を引き出すところがよいと思います。また、結論が巻末にまとめてあることもよいと思います。結論が巻末にあるというつくりについて、これまでの教科書はどうでしたか。

【答申者】

- ・現在、採用している教科書も同様のつくりになっています。

【委員】

- ・今回の教科書には、二次元コードが増えています。その部分に関わって、東京書籍と教育出版で特徴的なものは何かありますか。

【答申者】

- ・東京書籍の二次元コードは、それぞれの既習内容について動画でわかるようになっています。教育出版では、単元に関連した他学年の教科のページが表示されるようになっています。

【委員】

- ・まとめを書くことは学習をするうえで非常に大切になってきます。そういったことを考えると、教科書の中にまとめが書いてあると生徒は考えてまとめを書くのかなと疑問に感じます。まとめが書けない生徒にとっては必要な配慮ではあると思いますが、教科書の問題が「～だろうか」となっており、まとめてみようとか書かれており、キーワードが示されています。生徒がまとめを書くことについて、全てを与えてしまうのではなく、ステップやヒントになるようなつくりになっているところがいいと思いました。

【委員】

- ・花のつくりに関わる内容を見ると、教育出版は「～と～と～で、」となっています。東京書籍は「花のつくりには」と一般化されるようなつくりになっているところがよいと思いました。
- ・教科書にまとめがあるとそこにひっばられてしまいますが、キーワードをもとにまとめを書くというしくみがとてもよいと思いました。

【委員】

- ・メスシリンダーの使い方について、教育出版86ページのと東京書籍82ページを比べました。この内容は使い方を身に付けるところですが、生徒が見てすぐにわかるようなつくりになっているので東京書籍がよいと思います。

【司会者】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、東京書籍を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思ひます。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

美術

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・美術科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・岐阜県・美濃地区は、土や木、紙といった素材が豊かで、そこから生み出された文化（陶芸、木工、手すき和紙、刃物等）が発展した地域です。
- ・地域素材が豊富な地での美術科の課題としては、美術授業の時間数減少のなか美濃地区は小規模校が多いこと、また、美術科の専門免許を取得している本務の教員が少ないことから、講師の方が複数校兼務したり、免許外の教職員が担当したりするなどの現状がみられます。
- ・この現状を受け、生徒の学びの質を担保するために「美術科の教科書」は、その役割を大きく担っていると考えます。
- ・以上の課題を受け、3者すべての調査結果を着眼点5点から説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・着眼点1・1－（1）資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成することについて、調査結果を述べます。
 - ① 「開隆堂」は、
 - ・教科書【2・3年P14～17】「自分と向き合う（自画像）」では、思考力・判断力・表現力が「主題を考えて構想を練るとともに～」とあるように目標を大きく捉えて示されています。
 - ② 「光村図書」は、
 - ・教科書【2・3年P54～65】「今の自分 これからの自分（自画像）」では、思考力・判断力・表現力が「心豊かな表現の構想を練る」と大きく捉えて示されています。
 - ③ 「日本文教出版」は、
 - ・教科書【2・3年下P10～13】「わたし自身を見つめて（自画像）」では、思考力・判断力・表現力が「構図や表情などの効果を考え」のように「表現」が造形的な視点で具体的に示してあります。
 - また、学習指導要領に示される「各学年の発達特性」を踏まえて、教科書が1年 2・3年上、2・3年下の3分冊に分けられ学習目標も発達特性に沿って示されています。
- ・着眼点2・1－（2）各教科等・各学年相互間の関連・系統性、発展性について、調査結果を述べます。
 - ① 「開隆堂」は、
 - ・図画工作科と美術科の系統性が、【美術1：P2～5】まで3ページにわたって取り扱われています。
 - 「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」の位置付けがあり「社会とつながる文化を生み出す」という記載がされ、生活や社会との関連を意識できるように工夫されています。
 - ・「デザインや工芸」の入り口に関する記載は【美術1：P35】「つくることでつながる」というデザ

インの一部であるファッションを中心に記載されています。

② 「光村図書」は、

- ・ 図画工作科と美術科の系統性は、【美術1：P10、11】「自分の表現の探究」「社会への発信」「作品をじっくり鑑賞」「形や色の工夫」と学びが位置付けられています。
- ・ 「デザインや工芸」の世界【美術1：P46、47】では、「飾る」「伝える」「使う」という内容を明記し、題材の位置付けとくらしとのつながりについて明確に示されています。また【美術2・3：P69】では、「暮らしの中のデザイン・工芸」として、1日の生活の中にどう生かされているかを意識できるように示されています。

③ 「日本文教出版」は、

- ・ 図画工作科と美術科の系統性は、【美術1：P6、7】「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の題材の位置付けが示されています。
- ・ デザインや工芸の題材の入り口【美術1：P36、37】には、「飾る」「伝える」「使う」という内容を明記し、題材の位置付けとくらしとのつながりが明確に示されています。
- ・ 着眼点3・2－(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価について、調査結果を述べます。

① 「開隆堂」は、

- ・ 【美術2・3：P18～21】題材ごとに<鑑賞><知識・技能><発想・構想>のめあてが記され、表現の活動の見通しがもてるよう配慮されています。

② 「光村図書」は、

- ・ 【美術2・3：P16～18】題材ごとに<鑑賞>のめあて、<表現(発想・構想)>のめあてを記し、それぞれの活動においてどのような学びを行うのが明確に示されています。また、「みんなの工夫」として、実際の生徒作品とその制作過程における思いや見方・考え方が吹き出しで記され、学びの見通がもちやすく工夫されています。

③ 「日本文教出版」は、

- ・ 【美術1：P9】一番初めに「鑑賞との出会い」として鑑賞の学習内容を明記し、本書がこの活動を大切にしている姿勢が読み取れます。
- ・ 題材ごとに<鑑賞の入り口>があり、題材の魅力や設定、造形的な見方・考え方を働かせることができるように、よく配慮されています。さらに、二次元コード「学びのはじめに」で題材の導入で使用できるように配慮されています。「技能」や「発想・構想」などに関わる資質・能力を<表現のヒント>によって育成できる工夫もされています。
- ・ 着眼点4・2－(3) ICTを活用した学習活動について、調査結果を述べます。

① 「開隆堂」は、

- ・ 【美術1：P26～31】絵や彫刻の鑑賞「江戸の美術の面白さ」では、屏風の面白さを見開きと折り込みで伝えています。見開きには「二曲一双」、折り込みには「六曲一双」を掲載し、バックを黒にして迫力のある鑑賞作品となっています。この作品を動画で鑑賞できるよう二次元コードが掲載されています。
- ・ 二次元コードは、全学年で41個掲載されています。

② 「光村図書」は、

- ・【美1】P43・折り込みP37～40の「風神雷神図屏風」では、屏風の面白さを折り込みで伝えていきます。「二曲一双」の作品を動画で鑑賞できるよう二次元コードが掲載されており、鑑賞する視点を示し、一緒に鑑賞している体験をすることができます。
 - ・二次元コードは、全学年で138個あり、生徒作品が多く掲載されています。
- ③ 「日本文教出版」は、
- ・【美術1：P24～29】の絵や彫刻の鑑賞「屏風、美のしかけ」では、見開きに「二曲一双」、折り込みに「六曲一双」を掲載しています。その作品を鑑賞する二次元コードが掲載されており、「昔の薄暗い室内ではどのように見えていたのでしょうか」と、その時代を疑似体験できるようになっています。また、それと同時に、教科書の折り込みに印刷されている屏風を実際に手で折り立体的に立てて鑑賞し、生徒が手に触れて感じ取ることができるようになっています。
 - ・二次元コードは、全学年で107個掲載されています。
- ・着眼点5・3－(3) 上記以外の使用上の便宜について、調査結果を述べます。
- ① 「開隆堂」は、
- ・【美術2・3：P34、35】「喜多川歌麿の当時三美人」「葛飾北斎の富嶽三十六景」では、「版画の種類とその特徴」が一緒に掲載され、比較して鑑賞できるよう工夫されています。
- ② 「光村図書」は、
- ・【美術2・3：P40～42】「葛飾北斎の富嶽三十六景」の作品が原寸大で示されており、浮世絵の色彩や作風など、作品のよさを生徒が実感できるよう工夫されています。また、和紙のような紙質に印刷することによって、より浮世絵の特徴を捉えることができるよう工夫されています。
- ③ 「日本文教出版」は、
- ・【美術2・3上：P25】浮世絵の表現の特徴についてだけでなく、「浮世絵づくりを支える職人たち」という項目に、版画の分業化やプロセスがわかりやすく示されています。このことによって、生徒が浮世絵のよさや特性に関心をもち、意欲的に鑑賞に取り組んでいく効果が期待されます。また、指導者にとっても、指導に役立つことができると考えます。また、P26～29ページの見開きで「葛飾北斎の富嶽三十六景」などの作品が原寸大で示されており、作品のよさを生徒が実感できるよう工夫されています。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この3者を5つの着眼点から比較します。
- ・着眼点1（1－(1)）において、①「開隆堂」は、よく配慮されています。②「光村図書」は、よく配慮されています。③「日本文教出版」は、大変よく配慮されています。
- ・着眼点2（1－(2)）において、①「開隆堂」は、配慮されています。②「光村図書」は、大変よく配慮されています。③「日本文教出版」は、よく配慮されています。
- ・着眼点3（2－(2)）において、①「開隆堂」は、よく配慮されています。②「光村図書」は、よく配慮されています。③「日本文教出版」は、大変よく配慮されています。
- ・着眼点4（2－(3)）において、①「開隆堂」は、配慮されています。②「光村図書」は、よく配慮されています。③「日本文教出版」は、大変よく配慮されています。
- ・着眼点5（3－(3)）において、①「開隆堂」は、配慮されています。②「光村図書」は、大変よく

く配慮されています。③「日本文教出版」は、大変よく配慮されています。

- ・以上まとめると、
 - ・『開隆堂』が5つの着眼点のうち、「2つでよく配慮」されています。
 - ・『光村図書』が5つの着眼点のうち、「2つで大変よく配慮」されています。
 - ・『日本文教出版』が5つの着眼点のうち、「4つで大変よく配慮」されています。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・今後若い先生が増えてくることが予想されます。題材を通して、何を学ぶのか目標はどうするのか、扱うどのように評価するのかと考えたときにどうでしょうか。

【答申者】

- ・着眼点1に関わりますが、教科書の上にある題材の横に記されているように生徒もわかりやすく指導者にとってもわかりやすくなっています。題材を通して、何を学ばせるのかを考えてその部分調査しました。日本文教出版が、具体的にわかりやすく記載されており、明確であると考えました。

【委員】

- ・開隆堂の手触りが個人的に好きです。説明や中身を見たとき、生徒の作品が一番掲載されているのは日本文教出版ではないでしょうか。生徒の作品が掲載されているので、生徒自身が自分でつくるうえで見本とすることを考えると日本文教出版はわかりやすいのではないかと考えました。

【委員】

- ・若い先生、専門外の先生が授業をすることが多いという美濃地区の実態を考えると、日本文教出版の「学びをささえる視点」というのがとてもわかりやすいと思います。生徒にとってもわかりやすいということになるので非常に充実していると思いました。

【委員】

- ・「学びをささえる視点」は、経験が浅い先生にとっても生徒にとってもわかりやすいと思います。表現のヒントは、生徒の参考になると思いました。

【委員】

- ・開隆堂と光村図書には、光に関する題材がありますが、日本文教出版にはないのでしょうか。

【答申者】

- ・開隆堂は、美濃市のあかりアートにつながるようなものが掲載されています。日本文教出版は、2・3年上の38、39ページにあかりを扱っている題材が掲載されています。ここについて、美術科の調査研究員で調査はしました。美濃市をイメージしたときに、日本文教出版は、城までの通り道につくられた「あかり」の生徒作品があります。生活の中にどのように生かされているかという発想が大切だと考えています。そういったことを創造できることが作品をつくる上で大切にしたいことだと考えています。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、日本文教出版を

採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたい
と思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

【司会】

- ・これにて、本日の議事を終了いたします。
- ・次回は、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、保健体育、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野）、書写、道徳の7種目の採択協議を行います。
- ・これをもって、令和6年度 第2回 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を終了します。

令和6年度 第3回美濃地区教科用図書採択協議会議事録

- | | | |
|------|---------------------|----------------------|
| ・日 時 | 令和6年7月12日（金） | 9：00 ～ 14：15 |
| ・場 所 | 美濃市防災・中央コミュニティーセンター | 3階大会議室、答申者控室（2階大会議室） |
| ・出席者 | 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会委員 | 事務局 |

【司会】

ただいまから、令和6年度 第3回岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を始めます。

- ・本日の協議会は、協議会委員の出席者が過半数を超えているため、協議会規約第9条により、会の成立を認めます。それでは、音楽（一般）の採択協議から始めます。

音楽（一般）

【答申者】

1 答申者自己紹介

2 着眼点の説明

- ・音楽科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における音楽科指導の課題について説明いたします。最近では、SNSの普及や発達により、パソコンやスマホで簡単に音楽を視聴したり、購入したりすることが可能になり、音楽が大変身近なものとなっています。気軽に音楽に触れることができ、生活と音楽が密接になった反面、音楽をじっくりと聴くという機会は減っているように感じています。そのため、週1時間の音楽の授業では、音楽をじっくり聴いたり、表現したりすることを通して、「音楽を形づくっている要素」が音楽に与える効果や、音や音楽が生活や社会の中でどんな役割を果たしているのかを実感する授業を展開したいと考えます。このようにより深い学びをするために、生徒自身もどのような力を身に付ければよいのか、どのような見方・考え方、感じ方を大切にすればよいのか、音楽という教科で何をどのように学び、どんな力を身に付ければよいかがよりわかりやすいことが求められています。
- ・音楽はその教科の特性から、音や音楽に着目することが必要であり、その窓口として「音楽を形づくっている要素」が提示されています。しかしながら、生徒にとっては、目に見えない「音楽を形づくっている要素」を介して音と向き合うことは難しいのが現状です。さらに、美濃地区では、小学校の音楽教育が専科ではなく、担任が音楽の指導をしている学校も多く、9年間を通して、音楽の資質・能力の育成することが難しくなっています。そのため、中学校の音楽教育で、いかに系統的に整理して、音楽の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成していくことができるかが求められています。
- ・そこで、これらの美濃地区の課題との関連を意識し、『着眼点1—(2)「各教科等・各学年相互間の関連・系統性・発展性」』『着眼点2—(3)「ICTを活用した学習活動の充実」』の2点から説明をいたします。

3 着眼点に応じた各教科書発行者の特徴の説明

- ・「教育出版」と「教育芸術社」の2者のみですので、2者すべての調査結果から調査研究結果の比較を説明いたします。

4 調査研究結果の比較

- ・まず、着眼点1－(2)「各教科等・学年相互間の関連・系統性・発展性」について、比較した結果を説明いたします。

① 「教育出版」は、

- ・題材ごとに比較する2つの教材曲を用い、比較することで学びを深める配列になっています。比較することで、「音楽を形づくっている要素」を複合的に捉えることができるよう工夫されています。また、学習MAPでは、他領域への学びのつながりが線で示され整理されています。具体的な例を取り上げて説明します。
- ・教育出版1年生14ページ、15ページをご覧ください。左上に「曲の特徴を生かして歌おう」という題材名が書かれています。曲の特徴を生かして表現を工夫する学習として「ドレミ」と「エーデルワイス」を扱います。ワークシートには、比較する音楽の要素の3つ「速度」「拍子」「テクスチャ」が示され、「音楽を形づくっている要素」を複合的に捉え、それらを生かして表現の仕方を工夫する活動を仕組むことができます。
- ・「音楽を形づくっている要素」の1つである「形式」の学習では、歌唱曲「夏の思い出」と「赤とんぼ」を扱い、これにつなげる学習としてビバルディの「春」を鑑賞します。歌唱領域と鑑賞領域を繋いだ一連の学習を通して「曲の形式」の学びを深めることができるようになっています。2、3年生上32～33ページをご覧ください。創作領域は、教科書に書き込みができるワークシート型となっており、「もっと楽しもう」として、歌唱領域の合唱曲に合うリズムパターンを創作するという発展的な学びができるようになっています。このように学習指導要領の各学年の目標や内容に対応した題材が、系統性をもって組織され、その題材を軸にして歌唱、鑑賞、創作の3つの領域をまたいで学習できるよう教材が配列されています。
- ・1、2年生に「シングシング」が配置され、学年に応じた歌唱技能の習得ができるようになっています。
- ・以上のことから「教育出版」は着眼点1－(2)「各教科等・各学年相互間の関連・系統性・発展性」について配慮されています。

② 「教育芸術社」は、

- ・すべての教材において、3つの資質・能力に基づき「何を学ぶのか」を明確にしています。また、各教材を学ぶ手がかりとなる「音楽を形づくっている要素」を明らかにしています。どの教材にも複数の「音楽を形づくっている要素」が位置付けられ、同じ要素の働きをもつ教材を選択して繋げたり、他の領域と関連づけたりしながら学習を進めることができます。具体例で説明します。教科書18ページをご覧ください。これは歌唱領域の「主人は冷たい土の中に」です。この教材には、4つの「音楽を形づくっている要素」が位置付けられています。この中の「旋律」の働きと「強弱」の関係についてを扱うこととします。19ページには「学びのコンパス」としてワークシートが配置されており、「旋律の特徴」「強弱」など、「音楽を形づくっている要素」を窓口として、1つ1つを確認しな

がら曲の構成を考えることができる仕組みになっています。

- ・20ページには、「主人は冷たい土の中に」で学習した「旋律の働き」を創作領域につなげることができるようになっています。
- ・このように「音楽を形づくっている要素」の表記は、すべての教材において位置付けられ、「音楽を形づくっている要素」の働きに着目して、系統的・発展的に関連付けて学ぶことができます。
- ・各学年に「マイヴォイス」が配置され、学年に応じて発展的に歌唱技能が習得できるようになっています。
- ・以上のことから「教育芸術者」は着眼点1－(2)「各教科等・各学年相互間の関連・系統性・発展性」についてよく配慮されています。
- ・この2者を着眼点2－(3)「ICTを活用した学習活動」について、比較した結果を説明します。

① 「教育出版」は、

- ・二次元コードが各学年9～12個記載されており、学習内容に応じて活用できるようになっています。これらの二次元コードは2種類あり、赤は「見る 聴く」、緑は「記録する」と分類されています。
- ・2、3年上の教科書の44、45ページをご覧ください。鑑賞領域の「ボレロ」の教材で説明します。左上の二次元コードは赤の「見る 聴く」の二次元コードで、これを読み込むと、この曲を演奏している楽器のうち11種類の楽器の音色聴くことができるようになっています。実際に演奏している動画を視聴することによりさまざまな楽器の音色を実感することができます。このようにそれぞれの楽器の音色を聴くことは、個別最適な学びにつながる、補充的な学び、発展的な学びなど、生徒一人一人の多様な学びに応じた活動につながります。また緑の二次元コードを読み込むと、ワークシートが表示され、タブレット上での書き込みが可能になります。
- ・このように視聴したり、記録したりすることが複数の教材でできるようになっており、生徒が学習課題や学習活動に応じて活用できるようになっています。
- ・以上のことから「教育出版」は、着眼点2－(3)「ICTを活用した学習活動の充実」について配慮されています。

② 「教育芸術社」は、

- ・どの学年にも40個以上の二次元コードがあります。この二次元コードを学習に役立つコンテンツとして「動画」「音源」「創作ツール」「文章、ワークシート」という4つのアイコンで種別し、位置付けられています。1年生60ページをご覧ください。歌唱領域の「ソーラン節」で、二次元コードを読み取ると、「男声」と「女声」の2種類の演奏が視聴でき、個別最適な学びが可能になります。1年生69ページをご覧ください。「生活や社会の中の音や音楽」として、身近な音に耳を澄ませる学習内容になっています。右下の二次元コードを読み取ると、普段の生活の中にある様々な音が音源として収録されており、生活の中の音に耳を傾ける学習活動が可能です。
- ・歌唱領域の様々な曲の右下には、パート別やカラピアノの音源が位置付いており、生徒が自分で選択しながら練習することができます。個別最適な学習に活用できます。
- ・創作領域における二次元コードには創作に関わるツールとワークシートが位置付けられています。その創作ツールでは、タブレット上で音符を動かして創作することができ、さらに音で確かめることができます。記譜が難しい生徒でも抵抗なく音楽づくりをすることが可能です。生徒が見通しをもっ

て学習を進めることができるように配慮されています。

- ・「教育芸術社」は着眼点2-(2)「ICTを活用した学習活動の充実」についてよく配慮されています。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・ICTを活用した学習活動について教えてください。2者について説明がありましたが、鑑賞ではタブレットを使うと思いますが、授業中に生徒一人一人がタブレットを使って音を聴くという活動は学習として成立しますか。イヤホンが必要であるということはありませんか。

【答申者】

- ・現在、授業の中でタブレットから出る音を聴いて活動することを行っています。イヤホンがすべての生徒にないのが現状です。しかし、生徒が耳をタブレットに近づけることで、しっかりと音を聴くことができます。生徒のニーズにより、音を選択できることは学習の幅は広がります。全員にイヤホンがあるとさらによいと思います。

【委員】

- ・発声について、2者には「My Voice!」「Sing!Sing!」があります。「My Voice!」は全ての学年の教科書に位置付いています。「Sing!Sing!」は、中学校1年生の教科書と中学校2、3上に位置付いています。学年によって内容に違いはありますか。

【答申者】

- ・教育出版の「Sing!Sing!」と教育芸術社の「My Voice!」を比べると、教育芸術社の方が発展的になっています。

【委員】

- ・楽譜を読むことはできない人にとって、歌や曲を聞いて情景を思い浮かべるときに、教科書の写真や挿絵が有効になります。教育芸術社は、桜の写真があるなど優れていると感じます。
- ・2者とも日本の歌や歌舞伎について扱われていますが、教育芸術社は能が扱われています。郡上市は、能に力をいれており、郡上踊りといった伝統芸能があります。郷土の祭りや伝統芸能という視点で考えると、教育芸術社はそういったものがよく位置付けられており、地域の題材を大切に扱われているのがよいと思います。

【委員】

- ・丁寧な説明でよくわかりました。これまでの音楽では、ピアノを弾くことができる生徒や教員が音取りをしていました。二次元コードがあることで、生徒が聞きたいときに、聞くことができます。教育芸術社は、そういったコンテンツが多いです。また、学びのコンパス、ワークシートなど学びの要素や学ぶ視点が細かく位置付けられているところがよいです。

【委員】

- ・二次元コードについて、教育芸術社の方は、生徒や教師が扱いやすいと思います。教育出版社は、緑色や赤色などの色とマークで区別をしていますが、教育芸術社は、文字で「ワークシート」「カラピアノ」などと書かれています。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、教育芸術社を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思ひます。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

音楽（器楽合奏）

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・音楽科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における音楽科指導の課題について説明します。美濃地区の中学校においては、生徒が楽器に触れる機会をもち、楽器を使って音楽表現できるよう、学習内容を考えています。しかし、楽器については、ある程度の数が必要となるため、学校によっても数にばらつきがあるものです。そのため、現在では、学習できるものとそうでないものがはっきりしているのが現状です。そのような中でも、生徒が楽器に触れる機会、また、実感を伴って表現できる機会をより多くつくることができるようにすることが求められています。・そこで、これらの美濃地区の課題と関連を意識し、『着眼点1－（1）「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」』『着眼点1－（2）「各教科等・各学年相互間の関連・系統性、発展性」』『着眼点2－（1）「個別最適な学び」と「協働的で深い学びの視点からの授業改善」』『着眼点2－（3）「ICTを活用した学習活動」』の3点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・音楽科では、教科書発行者が「教育出版」と「教育芸術社」の2者のみですので、2者すべての調査結果から調査研究結果の比較を説明します。

4 調査研究結果の比較

- ・着眼点2－（1）「個別最適な学び」と「協働的で深い学びの視点からの授業改善」について説明します。
- ・2者に取り上げられている曲目数を比較しました。
 - ① 「教育出版」は、
 - ・奏法を学ぶ教材として、全37曲掲載しています。そのうち、「箏5曲」「太鼓については、曲名がある表現教材は0曲」「篠笛5曲」です。多くの教材曲にふれる配慮がなされています。
 - ・「教育芸術社」では、全25曲掲載しています。そのうち、「箏4曲」「太鼓1曲」「篠笛2曲」です。どの楽器についてもまんべんなく掲載され、取り上げる楽器の指導によって偏りがないようによく配慮がなされています。
 - ・「箏」の指導の内容についてです。教科書には、姿勢と構え方について写真が掲載されています。
 - ① 「教育出版」は、
 - ・全体像を斜め上から提示しています。
 - ② 「教育芸術社」は、
 - ・姿勢とかまえ方について、全体像だけではなく、演奏者の視点から楽器を眺めた写真が掲載されています。実際に楽器を演奏する際に写真を手掛かりに、生徒が自ら学習に取り組むことができるようよく配慮がなされています。

- ・基本的な奏法の指導についてです。
 - ① 「教育出版」は、
 - ・基本的な奏法について、「爪で上から抑えるように弾く」「弾いたあとは次の弦に当てて止め、跳ね上げないようにする」と、一連の動作が丁寧に解説されています。さらに、手元をアップした写真の掲載により、基本的な奏法について、進度に合わせ、自分で情報を得ることができます。そして、最後に練習曲を配列することにより、基本的な奏法を学ぶことができるように、配慮がなされています。
 - ② 「教育芸術社」は、
 - ・「角爪」と「丸爪」の違いを示しながら、一連の動作を解説しています。奏法について、ポイントを絞って、写真や文章で丁寧に解説されています。さらに、「弾いてみよう」の練習では、一小節のみの旋律を繰り返し練習できるよう工夫されています。これは、自分にとって必要とする内容を選択して学ぶ姿につながります。基本的な奏法をスモールステップで学ぶことができるよう、よく配慮がなされています。
- ・「太鼓」の指導の内容についてです。
 - ・構え方や打ち方の提示について説明します。
 - ① 「教育出版」は、
 - ・演奏者の視点で捉えた写真を多く掲載したり、コマ撮りの写真を掲載したりしています。教科書を手掛かりに、自分で学習を進めていくことができるよう配慮されています。
 - ② 「教育芸術社」は、
 - ・様々な「太鼓」の種類を比較しながら姿勢や構え方について学ぶことができます。これは、アンサンブルを行う際、演奏する楽器は違っても、仲間と確認をしながら学び続けることができる姿につながります。
 - ・個人の進度に即して学ぶことはもちろんのこと、「協働的な学び」への一助となる提示や、楽曲の配列がよく配慮されています。
 - ・着眼点2－(3)「ICTを活用した学習活動」の着眼点における、「二次元コードの数と掲載内容の分類の傾向はどのようであるか」について説明します。
 - ・三味線の指導内容における二次元コードの取り扱いについて説明します。
 - ① 「教育出版」は、
 - ・2か所にコードが提示され、基本的な奏法や調弦についての実演と説明がなされています。
 - ② 「教育芸術社」は、
 - ・3か所にコードが提示されており、基本の奏法や応用の奏法の実演や説明がなされています。また、演奏家のメッセージと合わせ、演奏家についての紹介なども加えられており、より充実した内容の情報が得られるよう、よく配慮がなされています。
- ・箏の指導内容についても比較しました。
 - ① 「教育出版」は、
 - ・箏を演奏する前の準備として、基本的な調弦法の平調子を聴きとることができます。生徒一人一人が自分の耳で音を聴き取り、演奏する前に、自分で調弦ができるようになっていきます。また、手元をアップにした映像により、ポイントを絞って確認することができます。生徒一人一人が必要な情報を確

かめることができるよう配慮されています。

② 「教育芸術社」は、

- ・演奏している手元をアップにし、いろいろな角度から確認することができます。動画に合わせて解説を加えているため、よりわかりやすくなります。さらに、生徒が陥りやすい誤った奏法について、注意喚起の解説がなされています。基本的な奏法についてスモールステップで学ぶことができるよう、よく配慮がなされています。
- ・着眼点1－(2)「各教科等・各学年相互間の関連・系統性、発展性」について説明します。
- ・最初に、篠笛の指導についての教材曲の扱い方についてです。

① 「教育出版」は、

- ・演奏する曲の1曲目に、馴染みのある楽曲を取り上げています。また、楽曲に歌詞を明記することで、演奏をしながら、より楽曲に親しみをもち、音色に着目しながら演奏を進めることができます。2曲目は、馴染みのある曲ではあるものの、指づかいや、音の動きが多くなる曲を取り上げ、発展的に学ぶことができるよう配慮されています。

② 「教育芸術社」は、

- ・演奏する曲の1曲目には、馴染みのある楽曲を取り上げています。楽譜には、唱歌が明記されており、郷土芸能で大切にされている口伝を体験しながら学ぶことができるようになっています。2曲目には、適度に抵抗のある楽曲を配列することで、無理なく学習を進めることができるようよく配慮されています。
- ・その他に、楽器の奏法については、9年間の学習のつながりを大切にし、これまでに学んだ楽器の奏法が紹介されていたり、加えて、新たな奏法も明記されていたりします。発展的に楽器の奏法について学ぶことができます。
- ・さらに、音楽科で育成される資質・能力が一目でわかるよう、学習内容が明記され、教材と学習内容の関連も示されています。生徒にとって、各学年相互の関連が一目でわかるようよく配慮されています。
- ・着眼点1－(1)「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」における、「音楽の多様性の理解につながる、取り扱う楽器、楽曲の分量」「音楽に親しんでいく態度を養う、楽器関連情報の内容と掲載状況」について説明します。
- ・美濃地区では、郷土の伝統芸能が現在でも根強く残っており、関市・美濃市・郡上市では春や秋祭りでのお囃子、郡上市では地域の青年団による太鼓演奏、地歌舞伎などがさかんに行われております。そんな地域の伝統芸能への理解や将来その芸能を支える人材を育てる、という意味で、どのように教材が取り上げられているか、という点は大変大切な視点であると考え、比較をしました。
- ・太鼓のページでは、2者とも、郷土の祭りや芸能との関わりについて、取り上げています。
- ・「教育出版」は、他県の2例の提示、「教育芸術社」では、4例の提示、その中に飛騨古川の例が取り上げられており、美濃地区では、より身近なものとして、生徒が興味・関心をもつことのできる内容となっています。
- ・「教育芸術社」は、他領域との関連というページがあります。音楽の教科書によって各学年で学ぶ伝統音楽について、使用楽器の観点から、まとめがなされています。自分たちの学ぶ楽器の演奏が地域の伝統芸能とどのように結び付くか、考えることができます。

- ・伝統音楽のみではなく、現代曲との融合という点についても、2者の教科書には、とりあげられた記述があります。

① 「教育出版」は、

- ・オーケストラとの共演が取り上げられ、楽器のコラボレーションを扱う配慮がされています。

② 「教育芸術社」は、

- ・和楽器と現代の楽器を組み込んだドラムセットが取り上げ、斬新な取組の紹介がされています。伝統音楽と現代曲とを融合させた、新しい音楽について、考えを広げることができるようよく配慮されています。

- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・ICTの活用について、例と数を示していただきましたが、教科書全体で二次元コードの数がわかれば教えてほしいです。また、これだけたくさんの器楽の体験を授業で行うのは、学校にある楽器の数や時間数の関係で難しいと感じます。そういった難しさはあるでしょうか。

【答申者】

- ・二次元コードの数は、教育芸術社の方が多いです。内容についても、基本的な解説が多いです。楽器については、教科書にあるがすべてを扱うことは難しいです。美濃地区については、箏を扱っていることが多いです。

【委員】

- ・ICTの活用を考えたとき、音楽は非常に相性がよいと思います。楽器の音を二次元コードですぐに聞くことができるのからです。授業だけでなく、もっと他の楽器の音を聞きたいと思う子は、自宅でもできます。教育芸術社は、二次元コードに打ち方などが書いてあります。教育出版はその他の中身を読めばわかりますが、他のところを読まないとわかりません。二次元コードを見てひと目でわかることは非常によいと思います。
- ・飛騨や古川について扱っているので、自分たちの地域のことが扱われているという実感がわくと思います。

【委員】

- ・太鼓の演奏写真を見たとき、教育芸術は男性も女性も演奏しています。教育出版社は男性のみです。生涯において音楽を楽しむということを考えたとき、男性のみではなくすべての人がというところが伝わってきます。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、教育芸術社を採択することが望ましいという方向だと思われれます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

保健体育

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・保健体育科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における保健体育科学習指導の保健分野の課題は、心身の健康の保持増進について自分事としてとらえながら、主体的に学びに向かう生徒の姿にやや弱さがあることが挙げられます。また、自分の考えを表現することにも弱さが見られ、学習の深まりに課題があるのが現状です。
- ・これらの課題と関連がある着眼点1（3）、着眼点2（3）の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・『着眼点1（3）「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」』『着眼点2（3）「ICTを活用した学習活動」』について、4者すべての調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・単元全般において、指導過程が主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、6つのまとまりにわけられています。
- ・「見つける」の活動と課題が明確に示されていることで、1時間の見通しをもちやすくなっています。
- ・知識・技能の習得、思考を促すための視点が明確にされた項目が示されています。
- ・学習活動の振り返りが多く位置付けられています。また「広げる」では、自己の生活につなげて考えるように構成されています。
- ・知識・技能が習得できるようなデジタルコンテンツが毎時間位置付けています。デジタルコンテンツの内容に、導入、知識・技能、発展、他教科とのつながりなどがあり、個別最適な学びや協働的な学びにつながっています。

② 「大日本図書」は、

- ・単元全般において、指導過程が主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、6つのまとまりにわけられています。
- ・「話し合ってみよう」では、対話的な活動を通して考えを深められるようになっています。
- ・「活用を深めよう」では、学んだ知識・技能を深め、活用につなぐことのできる学習のまとめが設定されています。
- ・「トピックス」や「ミニ知識」があり、興味のある内容であれば、主体的な学びや探究学習につながる工夫があります。
- ・章末に二次元コードがあり、まとめの問題をダウンロードすることができるようになっています。また、「中学校保健体育 WEB プラス」は様々な読み物やリンク集があり個別最適な学びができるようになっています。

③ 「大修館書店」は、

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて1単位時間を3つのまとまりにわけられています。
- ・「課題をつかむ」の活動が自分の経験を基に考えやすい内容となっており、学びの意欲につながる導入となっています。
- ・「学習のまとめ」では、多様な表現活動により、話し合いや考えを深める活動が設定されています。
- ・二次元コードから、学習のまとめ（知識）をクイズ形式でできるようになっています。
- ・まとめのワークシートがデジタル化されているため、共有がすぐにでき、協働的な学びにつながる工夫があります。

④ 「学研」は、

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて1単位時間を6つのまとまりにわけられています。
- ・「ウォームアップ」では、端的に行える内容が示されており、主体的に学ぼうとする意欲につながるようになっています。
- ・「探究しようよ！」のページがあり、主体的・対話的で深い学びとなるような活動が仕組みやすくなっています。
- ・二次元コードから、省庁など外部のホームページなどにリンクしており、発展的な資料を見ることができるようになっています。また、ワークシートをダウンロードできるようになっています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「主体的な学び・表現する力」に課題がある美濃地区については、生徒が「健康の保持増進について自分事としてとらえて主体的に学びに向かい、自己表現力を磨く」学びができるようにすることで、学習を深められることが重要となります。
- ・よって、「東京書籍」と「大日本図書」の二者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・この2者を着眼点1（3）から比較します。「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について、1年生「心身の発達」、2年生「生活習慣病、がんの予防」、3年生「感染症の原因と予防」から比較した結果を説明します。
- ・心身の発達の中の、「呼吸器・循環器の発達」から見ていきます。

① 「東京書籍」は、

- ・指導過程が「みつける」「学習課題」「課題の解決」「？（知識・技能の習得）」「活用する」「広げる」の6つのまとまりにわけられています。
- ・「みつける」では、日常経験や小学校で学習したことなどを基に、学習課題をつかむようになっています。
- ・それを受けて「学習課題」が端的に示され、本時学ぶことを確認できるようになっています。
- ・「課題の解決」では、キーワードが示されており、解決への見通しをもてるようになっています。
- ・「？」にある問いかけにより、資料を参考にして考えたり、表現したりしながら、知識を習得するようになっています。
- ・「活用する」の問いかけでは、習得した知識を活用して、深く考えられるようになっています。
- ・そして「広げる」では、学習したことを自分の生活にあてはめたり、さらに深く調べたりするようになっています。

- ・本文に沿って関連する資料が資料番号を付加しながら並べられており、順を追って学びを進められるようになっていきます。
- ・健康問題を自分事としてとらえて主体的に学びに向かい、表現することで、学びを深められるという点で、配慮されていると考えます。

② 「大日本図書」は、

- ・指導過程が「学習のねらい」「つかもう」「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」「まとめよう」「毎日の生活に活かそう」の6つのまとまりに分けられています。
- ・「学習のねらい」では、本時の学習を通して解決したい課題が示されており、学習の見通しがもてるようになっていきます。
- ・「つかもう」では、身の回りのことや自分の経験など、身近な疑問から学習をスタートすることで、興味をもって学習に取り組めるようになっていきます。
- ・「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」では、本文や資料を活用しながら、課題を解決するようになっていきます。学習する内容によって、資料を基に考えを書き出したり、仲間と話し合ったり、さらに深く調べたりする活動ができるようになっていきます。資料では、複数の資料を関連付けながら、話し合う活動が示されています。
- ・「活用して深めよう」では、学習したことを活用しながら、学びをより深める課題に取り組むようになっていきます。
- ・「まとめようでは」キーワードを基にまとめるようになっていきます。
- ・単位時間ごとのページには示されてはいませんが、学習したことを毎日の生活に生かすことが学習の流れの中に示されています。
- ・また、学習内容に関わるトピックスやミニ知識が掲載されており、興味をもって、より深く学ぶ意欲にもつながるものとなっています。
- ・本文は見開きページの左側に掲載され、関連する資料番号が付けられています。資料は固めては右側に掲載されており、いくつかの資料を関連させながら考えられるようになっていきます。
- ・健康問題を自分事としてとらえて主体的に学びに向かい、表現することで、学びを深められるという点で、よく配慮されていると考えます。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見・ご意見はございますか。

【委員】

- ・2者を比べたとき、大日本図書は令和2年度検定済の教科書となっています。2者の学び方については、よくわかりました。令和2年度から令和6年度の間、新型コロナウイルスの広がりや気温上昇による熱中症についてなどが話題となっています。
- ・熱中症について、東京書籍は122、123ページ「環境への適応能力」に加えて、126、127ページ「熱中症の予防と手当」があります。大日本図書は150、151ページ「環境への適応能力」の資料の中に「熱中症の予防」があります。これらを考えたとき、東京書籍の方が、内容が充実してい

おり、現在の社会状況に合っているのではないかと考えます。

【委員】

- ・ 学び方について、差異はないことがわかりました。
- ・ 東京書籍は、SDGsについて扱われています。大日本図書は「リサイクル」「リユース」という言葉になっています。
- ・ オリンピックの内容を比べたとき、大日本図書は、東京オリンピックが決定したということが掲載されています。東京書籍は、オリンピックに参加した選手数がグラフになっており、東京オリンピックに参加した選手数が掲載されているため、大日本図書に掲載されている情報よりも新しいです。最新情報が掲載されているもののほうがよいと思います。
- ・ 二次元コードの数について、東京書籍が多いです。呼吸器の内容に関わるページを比べると大日本図書32、33ページですが、図がわかりやすいものになっていますが、東京書籍30、31ページには、図に加えて二次元コードが掲載されており、二次元コードを読み取ると動画が示されるので、東京書籍の方が、よりわかりやすいのではないかと思います。

【司会】

- ・ 答申者からは、調査研究の中で4者を比較し、2者に絞られ、大日本図書がよく配慮されているという方向でした。教科書は、協議員の方が答申者の説明を受け、検討し採択決定するものです。もう少し皆さんのご意見をお聞かせください。

【委員】

- ・ 新型コロナウイルスに関しては、先程の方と同じ意見です。東京書籍144、145ページは、「感染症の予防」がありますが、145ページには新型コロナウイルスという言葉が書かれています。東京書籍は医薬品の取扱いだけでなく、健康を守る社会の取り組み、新型コロナウイルスに関わる人権が扱われています。大日本図書は、新型コロナウイルスに関する内容がなく、東京書籍と比べると内容がうすく感じます。保健領域において、知識を学ぶだけでなく社会とどう関わるのかが大切になります。
- ・ デジタルコンテンツについて、東京書籍が充実しています。個別最適な学び、協働的な学びを考えたときに東京書籍のほうがよいのではないかと思います。

【委員】

- ・ 保健の学習をする時数は少ないです。心身の健康の増進保持がねらい、そのために主体的に学ぶ必要があります。東京書籍4ページ「情報の活用」には、大雨、熱中症のことが掲載されています。美濃地区は、川と共に生きる地域です。最新の情報を活用することが心身の健康の増進保持につながると思います。

【委員】

- ・ 令和2年度の採択から変わっているのが新型コロナウイルスや東京オリンピックが終わってパリオリンピックが始まるということです。また、どの教科においても教科書の二次元コードが多くなっています。社会の状況や新しい教科書の特徴を生かすためには、東京書籍がよいのではないかと思います。

【委員】

- ・ 保健体育で保健を学習する時数は少ないです。自分の命、周りの命を守ることを考えたとき、学習内容に関わる情報を二次元コードで読み取ることができ、授業の中で必要なものをすぐに扱えるのがよいと思います。

- ・東京書籍177ページに「巻末スキルブック」があります。そこには、止血方法などのスキルがまとめられています。自分が知りたいことがすぐにわかり、必要なことをすぐに見ることができるところがよいです。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。協議員の皆様のご意見では、東京書籍を採択することが望ましいという方向だと思われます。東京書籍がよいと思う方は、挙手を願います。

(挙手)

【司会】

- ・それでは、保健体育については東京書籍を採択いたします。

技術・家庭（技術分野）

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・技術・家庭科（技術分野）では、学習指導要領や第4次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における技術・家庭科（技術分野）の課題は、専門の免許をもっていない先生方が免外申請をして指導するケースも少なくなく、そのため指導内容に差が出る可能性があることです。そこで、美濃地区全体で指導内容に差が出ない教科書を選定する必要があります。また、美濃地区の実態として都市部に比べて過疎化や人口流出の問題を抱えているため、持続可能な社会の実現に向けて、技術の見方・考え方を働かせ、自ら課題を見つけ問題解決に向かう主体的な態度を育む必要があります。これらの課題に関連のある着眼点1、調査内容1－（3）『主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善』、着眼点2、調査内容2－（1）『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』の2点から説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・はじめに着眼点1について、3者すべての調査結果を説明します。
 - ① 「東京書籍」は、
 - ・12ページ～25ページをご覧ください。技術分野のガイダンスとして、身の回りのさまざまな製品が紹介され、工夫創造の力が技術を支えていることや技術のもつ意味、技術の見方・考え方、技術による問題解決のプロセス等が示され、これから技術分野を学んでいく生徒が興味・関心をもち、今後の学習に見通しをもって主体的に取り組めるよう配慮されています。
 - ② 「教育図書」は、
 - ・4ページ～9ページをご覧ください。技術科で学習する4つの領域につながる製品の紹介や技術と環境整備のつながり、問題解決のプロセスについて示し、生徒やものをつくる人、使う人などさまざまな立場の人にとっての問題解決の方法が示されています。さまざまな立場や視点で学習に取り組めるよう工夫されています。
 - ③ 「開隆堂」は、
 - ・6ページ～17ページをご覧ください。身近な製品を例に挙げて、技術の役割、環境や経済性、科学や最適化、技術の見方、考え方や学習の流れ、さらには問題解決の流れが示され、これから技術分野を学んでいく生徒が、どのように学習を進めていくのかを理解し、主体的に学習に取り組めるよう配慮されています。
- ・続いて着眼点2について、個別最適な学びを進めるためには、多様な視点から問題を見つけ、具体的に解決していくことが求められます。そこで、問題解決例を挙げ、3者すべての調査結果を説明します。
 - ① 「東京書籍」は、

- ・72、73ページをご覧ください。具体的な問題解決例を挙げ、それについて見開き2ページの中に、問題の発見から、解決策の構想、制作、評価、改善・修正までの問題解決の流れが一目でわかるようにまとめられています。

① 「教育図書」は、

- ・38、39ページをご覧ください。具体的な問題解決例を挙げ、見開きの2ページで設計図と材料取りについて、次の見開き2ページで製作の流れを説明しています。

② 「開隆堂」は、

- ・62、63ページをご覧ください。具体的な問題解決例を挙げ、それについて見開き2ページの中に、問題の発見から設計、製作、評価・改善まで問題解決の手順がまとめられ、一目でわかるようになっています。

- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。美濃地区では、自ら課題を見つけ主体的に問題解決に向かう態度を育む必要があります。

- ・よって、学習に見通しをもて、自ら問題解決にのぞむためには「東京書籍」と「開隆堂」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点2調査内容2 - (1)から比較します。一人ひとりに応じた学習活動として技術の見方・考え方を働かせて取り組めるようにどのような工夫がされているかについて、比較した結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・生物育成の内容において、ガイダンスのページに生物育成に関わる技術の見方・考え方が示されています。また、問題解決例のページの中にも、題材ごとの見方・考え方が示され問題解決に取り組めるよう配慮されています。

② 「開隆堂」は、

- ・生物育成の内容において、ガイダンスのページで技術の見方・考え方が示されています。また、問題解決の実習例の中でも、技術の見方・考え方が示されています。さらに、どの内容でも、1時間目にあたるページに、実際に授業の中で技術の見方・考え方をどのように働かせていくかという記載があります。そして、どの内容でもその内容の技術の見方・考え方に関わり既存の技術を読み解くページがあり、学習を進める上で、その内容に関わる技術の見方・考え方を十分に働かせることができるようによく配慮されています。

- ・加えて、二次元コードからのコンテンツ資料は、一人ひとりが学びを深めるためにも有効です。ここでは実際に見ることはできませんが、

① 「東京書籍」は、

- ・二次元コードがほとんどのページに添付されており、掲載数も多く、個に応じた学習が進められるように工夫されています。

② 開隆堂は、

- ・ほとんどのページに二次元コードが備わっています。画面の配列もわかりやすく、より実践的な学びを深めることができるようよく配慮されています。

- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・詳細な調査をありがとうございました。美濃地区の技術は、専門の免許をもっていない先生が多いです。なるべく差がないようにという視点で調査をしていただいております。生徒が自分でものをつくる、例えば木材加工の授業を行うことを想定したとき、専門の免許をもっていない先生が授業をする場合は教材キットを使うことが多いです。キットの説明書に沿って作業することで、すぐに完成させることができます。しかし、これは生徒一人一人の思いに沿ったものではないものできてしまいます。自分の思い沿ったものをつくりたいことを考えると、製図をする必要があります。製図については、東京書籍は63ページ、開隆堂は43ページに書かれています。このページに差異はありません。しかし、東京書籍は、64、65ページになると難易度があがります。開隆堂は44、45ページになっても比較的簡単製作図が大きく書かれているため、生徒にとって見通しがもちやすく、自分でつくろうという思いが生まれると思います。開隆堂59ページには、一枚の木材からどうやって必要な部品をとるのが示されています。これが大きく書かれており、わかりやすいです。東京書籍にも67ページに示されていますが、細かく小さいのでわかりにくいです。生徒にとって、わかりやすくイメージしやすいこと、見通しをもってすすめることを考えると、開隆堂がよいと思います。
- ・エネルギー変換の技術では、開隆堂168ページ、東京書籍151ページになりますが、今でもプラグにほこりがたまってショートしたり、ドラムに熱がたまってショートしたりすることがあります。日常生活にある安全な使い方に関わって、開隆堂がわかりやすいと思います。

【委員】

- ・美濃地区の状況は、専門の免許をもっていない先生が多いです。日本はものづくり大国といわれていました。今はそうではないのが現状です。その中で、ものづくりに興味をもってほしいことを考えると、開隆堂は見開きページにドラえもんが書かれています。教科書の最後を見たとき、東京書籍は、「Society5.0」になっていますが、開隆堂は「命を守る防災、医療・介護の技術」となっていて、自分事になっています。そういった理由から、開隆堂が適しているのではないかと思います。

【委員】

- ・「情報の技術」を比較しました。開隆堂230ページ「情報セキュリティー」を見ると、危険性を伝えるためのイラストが工夫されています。情報モラルではSNSが扱われていますが、東京書籍にはSNSという言葉がありません。生徒の実態を考えると開隆堂がよいと思います。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、開隆堂を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思っております。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

技術・家庭（家庭分野）

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・技術・家庭（の家庭分野）では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画などに基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・家庭分野では、中学校生活3年間の中で、A、B、Cの各領域の指導内容と、生活の課題と実践という選択の題材を学びます。Aは「家族・家庭生活」、Bは「衣・食・住」、Cは「消費生活・環境」、選択はAからCを学んだうえで生活に関連する課題について学校または個人で選択し、長期休業などを使って学ぶ題材です。
- ・他の教科や分野よりも特徴として顕著なのは、未来に生きる子どもたちの「家族観」「家庭観」に直接アプローチする内容があることです。従来は、調理実習やミシンというイメージで語られていたこともある家庭科ですが、これからの日本、岐阜県、美濃地区を担う若者に対し「多様な価値観」にふれさせ、知識・技能として家族観を直接扱う教科だということです。
- ・外国籍生徒や保護者、特別支援が必要な生徒の増加、近年の生徒数の減少など、美濃地区でも県全体や全国と同様の傾向がありますが、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造する資質・能力を育成する家庭分野の目標を鑑み、関連がある着眼点1（3）、着眼点2（1）の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・『着眼点1（3）「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」』『着眼点2（1）「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」』について、3者すべての調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・家庭分野の学びを「自立と共生を目指して」ととらえ、1編から6編までの題材と選択1題材で構成し、系統的な学習を行うことができます。また、単位時間ごとに自分の生活と関わらせた発問を示すことで、生徒の興味・関心を引き出して学習課題につながる工夫をし、全6種類の実践例を示して、家庭生活での課題の実践へつなげています。

② 「教育図書」は、

- ・家庭分野の学びを「暮らしを創造する」ととらえ、A、B、Cの各領域と選択1題材で構成し、A、B、Cを関連させながら学びます。また、単位時間ごとに自分の生活と関わらせた発問を示すことで、生徒の興味・関心から学習課題を設定し、全8種類の実践例を示して実践につなげられるようにしています。

③ 「開隆堂」は、

- ・家庭分野の学びを「自立し ともに支えあう生活へ」ととらえ、A、B、Cの各領域と選択、実習例、発展の内容を示して、地域や学校によって順番や関連を工夫して学びます。また、単位時間ごとに自分の生活と関わらせた発問を示すことで、生徒の興味・関心から学習課題を設定し、「考えてみよう」「話し合ってみよう」等で他者との協働的な学びにつながるように工夫され、全10種類の実践例を

示して実践しやすいようにしています。

- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。家庭分野の特性として、多様な価値観と生徒のプライバシーに配慮しながら、未来に生きる子どもたちの「家族観」「家庭観」に直接アプローチする点に注目すると、「A 家族と家庭生活」領域の扱い方や、他者を理解し主体的に、そして協働的に生活をよりよくする学びができるようにするための工夫がなされていることが重要となります。
- ・よって、「東京書籍」と「開隆堂」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、着眼点「1」から、「領域 A 家族と家庭生活」の扱い方について、この2者を比較した結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・A領域を1編と6編に配置し、家族と家庭生活について1編2章の20ページから25ページの6ページで扱っています。ここでは、さまざまな家族の形とそれぞれの役割についてアニメなどを参考に理解を深めるよう配慮されています。

② 「開隆堂」は、

- ・「A 家族・家庭生活」として配置し、家族と家庭生活については16ページから37ページの22ページで扱っています。ここでは、「多様な家族」を「様々な暮らし方」として紹介しています。また、こちらのページでは、多様な家族関係の紹介や参考資料として身近な社会人の声の紹介も掲載されており、多様な家族観について学べるようよく配慮されています。

- ・次に、着眼点「2」から比較します。家庭分野の学習は、さまざまな生活実態に合わせ個に応じた学習課題を設定し、様々な考え方の他者と協力しながら主体的に学ぶことが大切です。

- ・「C 消費・環境」の支払いや情報の管理についての扱いについて説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・支払方法の一つとしてキャッシュレス決済について扱っており、図やイラストで学べるよう配慮されています。

② 「開隆堂」は、

- ・キャッシュレス決済について「話し合ってみよう」となげかけたり、このページのように商品の情報をどう扱うか、身近な例を使って話し合う活動を設定したりして主体的に学べるようよく配慮されています。

- ・「B 衣食住」の「住生活」の扱い方を比較します。

① 「東京書籍」は、

- ・住生活の扉のページをこのように示し、課題設定を促し、よりよい生活を送るための知識・技能を習得し安全で快適に住まうための住まいについて考えさせるよう、配慮しています。また、防災、減災に関しては4ページを割いて学びを支えています。

② 「開隆堂」は、

- ・住生活の扉のページをこのように示し、住まいと防災の視点をつなげながら、課題設定を促し、住まいと人権という視点を取り上げて生活を支える住まいについて考えさせるよ、よく配慮されています。また、防災については10ページを割いて理解を深めています。

- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・多様なものに対応していることがわかります。今、日本文化が見直されています。服装に関していうと和装です。開隆堂には、棋士の藤井さんの写真が掲載されています。現在活躍している方の写真があることで、生徒は興味・関心をもちやすいです。また、浴衣の着付けについて、開隆堂208、209ページの2ページにわたって書かれています。帯の結び方も丁寧に書かれています。東京書籍は125ページの1ページで、帯を結ぶことについては1文で書かれているだけです。浴衣は帯の結び方が一番難しいです。そういった部分から、開隆堂のほうがよいと思います。

【委員】

- ・防災は非常に大切なことです。開隆堂と東京書籍を比較したとき、開隆堂は教科書の右上に、道具が書かれています。内容と何か関係があるのですか。

【答申者】

- ・右上の道具は、不可欠というものではないですが、内容に関わる発展的なものにつながるものが書かれています。下の欄外にも、「豆知識」が掲載されています。

【委員】

- ・開隆堂31ページには、ヤングケアラーの体験談が掲載されています。ふみこんだ内容があっていいと思います。
- ・開隆堂184、185ページに関わります。美濃地区では制服の見直しがされていますが、長野県「学校でも私らしい服装」の部分とつながりがあっていいと思います。

【答申者】

- ・開隆堂は「多様な価値観」が軸になっています。
- ・住まいについては、例えば間取りのことを、生徒が考えて自分の自宅を変えることはできません。だからこそ、教科書の導入において、防災の視点となっています。中学生として、家庭にどう関わることができるかという視点で調査研究をしました。

【委員】

- ・開隆堂26ページ「多様な家族」では、里親、児童養護施設など踏み込みにくい部分について書かれています。16、17ページには国際結婚、3世代の家族などいろいろな家族の在り方の写真が掲載されています。そういったところがよいと思います。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、開隆堂を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

書写

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・国語科書写では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・現行の学習指導要領解説では、「各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要」と示されています。
- ・また、美濃地区における国語科書写指導の課題は、「国語科をはじめとする各教科等の学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、その書体や筆記用具を選択しつつ効果的な文字の書き方を工夫する態度」の育成です。端的に言うと、「書写の授業で学んだことが日常生活になかなか生かされていないこと」です。
- ・この課題と関連がある、『着眼点1－(2)「各教科等・各学年相互間の関連・系統性、発展性」』『着眼点2－(2)「生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価」』の2点から説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・『着眼点1 1－(2)「各教科等・各学年相互間の関連・系統性、発展性」の各教科等の学習活動や日常生活に生かす能力を育成するために、どのような学習内容が取り上げられているか。』『着眼点2 2－(2)「生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価」の生徒が、自らの成長や学習したことの意義・価値を実感したり、今後の学習につながる目標や課題をもって学習を進めたりできるよう、振り返りの場面はどのように扱われているか。』について、4者すべての発行者を調査しその結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・「生活に広げよう」「文字といっしょに」として、地域や身の回りの文字を取り上げたり、将来活用できそうな書状の紹介・実際体験したりするページが充実しています。
- ・巻末に「書写活用ブック」があり、いろいろな書式が国語、社会科、理科、技術科の授業や進路学習、日常生活で活用しやすくまとめられています。
- ・また、単位時間ごとに「見つけよう」と題して、疑問形で考えることを提示し、「書写のかぎ」を示すことによって、振り返りやすくなっています。
- ・評価については、各学年末に、「書写テストに挑戦！」のページが設けられており、生徒が身に付けた知識・技能の定着を図ろうと、よく配慮されています。

② 「三省堂」は、

- ・「書いて身につけよう」と題し、毛筆で学んだことを、硬筆で生かすためのページが見開きでとられています。
- ・資料編の中に、日常の書式として、「便箋と封筒の書き方」「はがきの書き方」「送り状・のし袋・願書・原稿用紙の書き方」があり、書き方の説明が丁寧に行われています。

- ・「書いて身につけよう」のページでは、学んだことを自分でまとめる場が設定されています。
- ・評価については、第2学年末に「学力テスト問題」のページが設けられています。

③ 「教育出版」は、

- ・「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」が位置付いており、毛筆で学習したことを生かして、硬筆で文字を書く学び方の定着や、他の教科で実際に活用する学び方が定着するよう配慮されています。
- ・コラムのページには、各地でみられる文字を取り上げており、日本の伝統的な文化に関わる情報が取り上げられています。
- ・課題が解決できたかどうか、○と△で自己評価できるように設定されています。
- ・評価については、巻末の「書式の部屋」に「書写テストで確認」のページが設けられています。

④ 「光村図書」は、

- ・コラムや教科名を示したページで、知識・技能を補充するための紹介が多くあります。また、学校生活や町の中にある文字を取り上げて、生徒に興味・関心をもたせる工夫がよくなされています。
- ・「生かそう」と題して、毛筆で学んだことを生かして、硬筆で書くことができるように設定されており、別冊の「書写ブック」を活用することで、より定着度が高まるように設定されています。
- ・単位時間ごとに「考えよう」と題してめざすべきことが記されており、それに対応する形で「学びのカギ」が位置付けられているため、明確な視点をもって生徒が学びを振り返ることができます。
- ・評価については、別冊「書写ブック」の第3学年に「書写テストに挑戦しよう」のページが設けられています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。
- ・「各教科等の学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、その書体や筆記用具を選択しつつ効果的な文字の書き方を工夫する態度」に課題がある美濃地区については、生徒が「文字を書く知識・技能を目的に応じて他教科、日常生活に生かすことのよさが実感できる」学びができるようにすることが重要となります。
- ・先ほど述べたように、知識・技能の定着・日常生活での活用の点から「東京書籍」と「光村図書」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点1－(2)「各教科等・各学年相互間の関連・系統性、発展性」から、学年間における系統性や発展性、各教科や領域との関連性に着目し、より具体的に比較します。
- ・まずは、学年間における系統性や発展性についてです。

① 「東京書籍」は、

- ・1年生「身に付ける」2年生「使い分ける」3年生「使いこなす」として、それぞれの学年の最終的にめざすことがキーワード化されています。
- ・そのめざすことに迫るために、前学年と現在の学年の学びが連続し、生徒の思考が結びつきやすいように工夫されています。

- ・ 28ページ「点画の連続」では、楷書との比較を示しています。小学校書写では、楷書における「点画の連続」や「文字と文字の連続」を学んできています。生徒にとって初めて学ぶ行書であっても、身に付けてきた学びから新たな学びへと系統的に学ぶことで、自信をもって学習に臨むことができるようになっていきます。
- ・ 72ページ「身の回りの文字の目的と工夫」では、学校や日常生活の中で自身が文字を書いたり見たりする場面を提示し、その目的や効果を考えるようになっていきます。1・2年生の学びを踏まえて、生活に生かすことができるよう発展的に配列されているといえます。
- ・ 以上のことから、各学年において反復的・螺旋的に学び、確実な定着を図るという点でよく考慮されています。

② 「光村図書」は、

- ・ 1年生「読みやすく書くための楷書」「読みやすく速く書くための行書」
- ・ 2年生「読みやすく速く書くための行書」「文字を使い分ける」
- ・ 3年生「文字を使い分ける」「未来へ向かって」
として、短文でその段階においてめざすことを示しています。特徴的なのは、前学年の後半と次学年の前半のめざすことの文言が一致していることです。
- ・ 2年生後半と3年生前半の「文字を使い分ける」を見てみます。
- ・ 78ページ「楷書と行書の使い分け」では、楷書と行書のどちらで記すべきか場面や状況を記し、考える場を設けています。さらに相手や目的、方法の観点から、その理由を考えることへと深められるようになっていきます。
- ・ 94ページ「文字の使い分け」では、場面提示を行い、楷書や行書に限らずどのような書体を活用すべきなのかを考えるようになっていきます。場面や状況に応じて選択する力を身に付け、社会に生かす意図があると考えられます。
- ・ 以上のように、未来の社会生活につなげるという点で考慮されています。
- ・ 次に2点目「各教科や領域との関連性」についてです。

① 「東京書籍」は、

- ・ 「生活に広げよう」として、学年が進むにつれて、学校生活から社会生活へと、あらゆる活動を自身の手で成し遂げることができるように、他教科・領域との関連を図った教材を組み込んでいます。
- ・ 39ページ「職場訪問をしよう」では、実際の活動場面だけでなく、事前や事後に、どのようなことを、なぜ行うべきなのかを生徒がワークシートを基に考えることができるようになっていきます。
- ・ 同様に、65ページ「地域の活動に参加しようー防災訓練」の学習では、先ほどの「職場訪問をしよう」の学習と同じようなワークシート形式で、抵抗なく社会へと目を向けることができるようになっていきます。
- ・ 具体的に、その手順を示したり、写真や図を使ったり、自ら学びを進めることができるように資料を充実させる配慮もなされています。
- ・ これらは、国語はもちろん総合的な学習の時間や学活「キャリア教育」など教科横断的な視点が十分に組み込まれているものであり、よく考慮されています。

② 「光村図書」は、

- ・ 言語活動に目を向け、最終的に学んできたことを基に選択し、考える活動へとつなげることができる

ようにしています。

- ・ 86 ページ「職業ガイドを作ろう」では、「国語」と記し、その学習の進め方を記しています。また、すぐに目につくよう、その言語活動の実物を写真で示すことで、視覚的にイメージを膨らませることができる工夫があります。
- ・ 99 ページ「防災フェスタを開こう」では、先ほどと同じように学習の進め方を示し、写真やイラストを多く提示しています。
- ・ 国語を中心とするものではありませんが、今日的な教育課題への対応についても考慮されています。
- ・ さらに、着眼点 2 - (2)「生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価」について、生徒が、自らの成長や学習したことの意義・価値を実感したり、今後の学習につながる目標や課題をもって学習を進めたりできるよう、振り返りの場面はどのように扱われているか、2 者について比較します。

① 「東京書籍」は、

- ・ 4 ページの通り、単元が「1. 見つけよう」「2. 確かめよう」「3. 生かそう」の三つのステップで構成されています。
- ・ 28 ページ「点画の連続」の「3. 生かそう」では、毛筆で学んだ「書写のかぎ」を生かして、硬筆で別の文字を書く活動を設定しています。
- ・ また、単元には、「目標」と「振り返ろう」を設定し、生徒自身が学習のねらいを意識し、何を身に付けたのかを振り返ったり、目標に対する自己評価を行ったりすることができるようにしています。「振り返ろう」では、文字を整えて書くための汎用的なポイントをまとめた「書写のかぎ」のキーワードを使って、自分の言葉で説明することができるようにたいへん配慮されています。
- ・ 44 ページをご覧ください。「東京書籍」は、各学年末に、「書写テストに挑戦！」のページを設け、学年ごとに学んだことを振り返り、身に付けた知識・技能の定着を図ることができるようよく配慮されています。

② 「光村図書」は、

- ・ 34、35 ページのように、学習の進め方を「①考えよう」「②確かめよう」「③生かそう」の三つのステップで示しています。
- ・ 58 ページ「点画の連続」の「③生かそう」では、毛筆で学んだことを硬筆で生かすために、別の文字を書く活動を設定しています。別冊の硬筆練習帳「書写ブック」の関連ページも示されており、硬筆課題を豊富に設定しています。
- ・ また、「目標」・「振り返ろう」を設定し、知識・技能の定着や自己の変容を確かめられるようにしています。「振り返ろう」では、目標が達成できたかをチェックして振り返ることができるよう配慮されています。
- ・ 別冊「書写ブック」の 20、21 ページをご覧ください。「光村図書」は、別冊「書写ブック」の中で、「書写テストに挑戦しよう」のページを設け、三年間で学習したことを振り返ることができるよう配慮されています。
- ・ 以上の調査結果から、「文字を書く知識技能を身に付け、目的に応じて他教科、日常生活に生かすことのよさが実感できる」学びができるよう「東京書籍」は、よく配慮されています。
- ・ 以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問・ご意見はございますか。

【委員】

- ・日常生活、社会生活につなぐことがわかりました。「生活に広げよう」があり、58ページには美濃和紙の説明があるので、東京書籍がよいと思います。

【委員】

- ・生活に結びつけることに関わり、硬筆、毛筆の時数が少ない中、授業で活用していただくことがよくわかりました。光村図書の別冊にあるようなものが東京書籍にはありません。東京書籍の場合、その部分についてはどのようにしますか。

【答申者】

- ・国語の中に書写があります。例えば、国語の作文の授業と関わらせて行うことができます。書写単体ではなく汎用的に活用できるように工夫することができます。

【委員】

- ・文字を書く機会が減っていきっています。どちらの教科書にもある「入学願書の書き方」は、これまでは役に立っていました。しかし、今では入学願書もデジタルになっていきっています。自分がいつ筆を持つのかと考えると、冠婚葬祭ののし袋ぐらいではないかと思います。しかし、文字がきれいに書けることはよいことです。採用試験で論文が位置付けられているところもありますが、そういったものが丁寧に書けるかどうかも大切になります。2者に大きな差はないかもしれませんが、東京書籍は、「手紙の書き方」を見たとき、大きくわかりやすく扱われているのが特徴ではないかと思います。生徒によって見やすいものを考えると、東京書籍がよいのではないかと思います。

【委員】

- ・どちらも工夫がされていることがわかります。実際に書くことをイメージしたとき、毛筆を使うことはほとんどありません。東京書籍と光村図書を比べたとき、東京書籍は目次をみたとき、1年「身につける」、2年「使い分ける」、3年「使いこなす」となっているので、学年間のつながりがわかりやすいです。
- ・まとめのテストは、光村は別冊になっています。書写は国語の中にあるものです。そういったことを考えると東京書籍はまとまりがあってよいと思います。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、東京書籍を採択することが望ましいという方向だと思われます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

特別の教科 道徳（道徳）

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・道徳科では、学習指導要領や第4次岐阜県教育振興基本計画における県の方針と重点に基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・はじめに、美濃地区における道徳科の課題について、2点説明します。
- ・1点目は、美濃地区の子どもたちは、本時でねらう価値にかかわる意義やよさを理解することに弱さがみられるということです。道徳的諸価値の理解について、自分との関わりで感じたり考えたりすることが十分ではないと考えます。
- ・2点目は、道徳科でクローズアップされた「考え、議論する」などの学習活動が目的になっているということです。ペアやグループでの学習活動を取り入れたり、AかBかなどの視点を与えて議論させたりする授業がよくみられます。しかし、そうした授業で、道徳的価値について自分の考えを深めたり、自己を見つめたりするまでに至らず、本時ねらう価値に十分にせまりきれていないという課題がみられます。
- ・道徳科では、これら美濃地区の課題と関連がある次の2つの着眼点について調査をまとめました。
 - 1点目は、着眼点1（1）「現代的な課題に問題意識をもち、多面的・多角的に考えるための教材の内容、構成、学習の進め方について」です。現代的な課題をはじめ、生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えるために、どのような教材を取り上げ、どのように学ぶかが示されているかということです。
 - ・2点目は、着眼点1（3）と着眼点2－（1）を複合的に捉え、「登場人物に自我関与する学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の位置付け、考え、議論する道徳の充実を図るための学習展開の構成について」です。「考え、議論する道徳」つまり、主体的・対話的で深い学びが実現する学習展開が構成されているかということです。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・今回、調査研究を行ったのは、6者です。6者すべての調査結果を説明します。
 - ① 「東京書籍」は、
 - ・複数の教材とコラムでユニットを編成しています。巻頭に「道徳の授業はこんな時間に」のページを設け、道徳の学習の進め方を3つのステップで記載しています。教材最後の「考えよう」には、自我関与したり、体験的、問題解決的に考えたりする発問、「見つけよう」には、自分を見つめて考える発問、「ぐっと深める」には、さらに考えを深める発問を位置付けられており、多様な発問により、生徒の考え方や感じ方を引き出す工夫がされています。
 - ② 「教育出版」は、
 - ・複数の教材とコラムでユニットを編成しています。巻頭に「さあ、道徳を始めよう！」のページを設け、道徳の学習の進め方を5つのステップで記載しています。教材の最初に、主題に関わる発問を、

教材の最後の「学びの道しるべ」には、問題意識をもつための発問、自分を見つめて考える発問、自分を振り返る発問が位置付けられています。

③ 「光村図書」は、

- ・複数の教材とコラムでユニットを編成しています。巻頭に「道徳の学習を始めよう」のページを設け、道徳の学習のポイントを3つずつ示すとともに、4つの学習活動を記載しています。教材の最後の「考えよう」には、道徳的な問題について考えを深めるための発問、「見方を変えて」には別の立場や視点からの発問、「つなげよう」には、他の学習や生活とつなぐ発問が位置付けてられています。

④ 「日本文教出版」は、

- ・複数の教材とコラムでユニットを編成しています。巻頭に「道徳科での学びを始めよう！」のページを各学年で位置付け、3つのステップで記載し、系統的に伸ばしたい力が明確に示されています。また、ミニ教材が設けられています。教材の最後の「考えよう」には、個で考えたことをもとに、仲間と考え議論し、深めるための発問を位置付け、「自分にプラスワン」では、自分を見つめて考える発問が位置付けられています。

⑤ 「学研」は、

- ・ユニットの編成はされていません。昨今話題となったことや著名人などを扱った資料が多く掲載されています。巻頭に「道徳科で学ぶこと考えること」のページを位置付け、学習活動の流れやICTの活用方法など学習の進め方を掲載しています。教材の最後の「考えよう」では、授業展開での中心発問と自己を見つめるための発問が位置付けられています。

⑥ 「あかつき図書」は、

- ・複数の教材とコラムでユニットを編成しています。巻頭に、「道徳の時間は、『自分を見つめ、考え、生きる』時間」のページを位置付け、学年ごとに道徳の時間の意義や学習の進め方を提示し、学習の見通しをもてるようにしています。教材の最後に、「自分を見つめて考える」発問、「いろいろな見方で考える」ための発問、「考えを深める」には、さらに考えを深めるための発問「自分との対話」では、自分を問いなおす発問が位置付けられています。
- ・なお「日本教科書」については、今回、見本の教科書提供がありませんでしたので、調査を行いませんでした。
- ・以上、各発行者の特徴について、着眼点をもとに説明をしました。
- ・美濃地区の課題から考えると、「東京書籍」と「日本文教出版」の2者が美濃地区の生徒の実態に合っていると考えました。
- ・これより、2つ着眼点に沿って、2者についてさらに詳しくご説明いたします。

4 調査研究結果の比較

- ・着眼点1「現代的な課題に問題意識を持ち、多面的・多角的に考えるための教材の内容、構成についてです。学習の進め方」について比較をしました。

① 「東京書籍」は、

- ・現代的課題として「いじめ問題」「生命の尊さ」「情報モラル」「SDGs」「多様性」を基にした教材が扱われています。特に、各学年「いじめのない世界へ」を4、5月に、「いのちを考える」を9月に、それぞれ複数の教材とコラムでユニットを構成し、年間に1回、集中的に「いじめ問題」と「命の尊

さ」について考えることができるよう配慮がされています。

- ・いじめ問題を扱った教材を例に説明をします。1年生「いじめにあたるのはどれだろう」「風評被害」という複数のいじめを直接的に扱う教材を通して、生徒が身近にある出来事として考えることができるよう配慮をしています。また、1枚絵や漫画による表現で親しみやすいよう配慮をしています。これらの教材の後には、「いじめって何？」というコラムを通して、いじめに関わる様々な立場の人々の思いに気づき、「いじめは決して許されない行為」であることを示し、まとめています。1年生の年度当初に、「いじめについて」の理解を深め、正しく知ることができるよう配慮されています。

② 「日本文教出版」は、

- ・現代的課題として「いじめ問題」「情報社会」「自立と共生」「環境と未来」「安全な生活」を取り上げ、SDGsや多様性の尊重と関連付けて教材が扱われています。特に「いじめの問題」に関わっては、各学年「いじめと向き合う」として、複数の教材とコラムでユニットを構成し、5月、9月、1月と年間3回、繰り返し「いじめ問題」と向き合い、考えることができるようよく配慮されています。
- ・いじめ問題を扱った教材を例に説明します。1年生の「いじめと向き合う」のユニットには、「さかなのなみだ」のように、いじめを直接的に扱う教材と、「言葉の向こうに」のように、いじめ以外の内容から間接的にいじめについて考えさせる教材を位置付けています。また、ユニットの中には、「いじめって何?」「お互いを認め合うために」「怒りの感情との付き合い方」など多様なコラムが組み合わされています。また、学年の発達に応じて、発展的な内容がとり扱われており、「いじめの問題」を多面的、多角的に捉えて考えることができるようよく配慮されています。
- ・次に第4次教育振興基本計画の施策1「豊かな人間性」の育成の重点として位置づけられている「ふるさと教育の推進」にかかわる教材を説明します。

① 「東京書籍」は、

- ・1年「ぼくのふるさと」で岐阜県重要無形民俗文化財である中山太鼓に取り組む串原村の中学生が教材として取り上げられています。2年生「祭りの夜」では、プラスのコラムにさまざまな祭りを紹介しています。美濃地区の子どもたちにも、郷土の一員として、郷土を愛する心の育成につながる教材が取り上げられています。

② 「日本文教出版」は、

- ・1年生「震災を乗り越えて～復活した郷土芸能～」2年生「和樹の夏祭り」3年生「稲むらの火」と美濃地区の地域にも関連する教材が取り上げられています。また、「自分にプラスワン」の発問は、段階をおった発展的な発問となっています。3年間を通して、ふるさとに誇りと愛着をもち、ふるさとの一員として、考えが広がるようよく配慮されています。
- ・続いて学習の進め方について説明をします。

① 「東京書籍」は、

- ・巻頭には、「道徳の授業はこんな時間に」のページを設け、道徳科の学び方を示しています。学習の流れを「気づく」「考える」「深める・広げる」の3つのステップで記載しています。学習の進め方について、3年間同じ内容に統一されており、学年があがっても繰り返し同じ進め方で学ぶことができるよう配慮されています。

② 「日本文教出版」は、

- ・巻頭に「道徳科での学びを始めよう！」のページを各学年で位置付け、道徳科の学び方を示していま

す。学習の流れを「気づく」「考える・議論する・深める」「見つめる・生かす」の3つのステップで記載しています。また、どんな学びをするのか、どんな生き方を大切にするのか、キーワードを示し、系統的に示しています。また、実際にどのように学ぶのか、ミニ教材が位置付けられており、4月当初のオリエンテーションで活用することができるようによく配慮されています。

- ・次に、着眼点2「登場人物に自我関与する学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の位置付け、考え、議論する道徳の充実を図るための学習展開の構成」について説明をします。

① 「東京書籍」は、

- ・1年生、2年生、3年生ともに防災教育にかかわる教材を通して、「生命の尊さ」について考えを深めることができるようにしています。1年生「夕暮れどきの避難」では、「避難所に行くか、家にとどまるか」の立場で、考え、議論する学習活動を展開しています。2年生「水辻村の決断」では、「あなたが村長だったら、引っ越す決断をするか、引っ越さない決断をするか」と問いかけています。3年生「避難所での出来事」では、「父の行動は許されるか、許されないか」と問いかけています。このように視点を与え、「自分だったらどう行動するか」考え、議論する学習活動を仕組み、道徳的判断力を養うことができるよう配慮されています。

② 「日本文教出版」は、

- ・1年生「裏庭での出来事」では、主人公健二について、道徳的行為に関する体験的な学習が設定され、中学生の発達段階でも無理のない設定で体験的な学習活動を位置付けています。
- ・2年生「ヨシト」3年生「卒業文集最後の二行」では、教材の中で起こっている道徳的な問題を見つけ、その解決に向けて自分との関わりで考えをもち、対話を通してさらに考えを深めるといった問題解決的な学習が展開されています。道徳的な問題を見つけるための発問では、教師が視点を与えるのではなく、生徒の感じ方、考え方を大切にしています。また、体験的な学習、問題解決的な学習が展開できるように、「学びを深めよう」が設定され、学習のながれが分かりやすく示されています。こうした多様な学習活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びとなるようよく配慮されています。
- ・「学びを深めるためのヒント」が位置付けられ、より、多面的・多角的に、深い学びが実現できるよう工夫されています。
- ・以上のことから、「日本文教出版」の教科書が、美濃地区の実態に適していると考えます。
- ・以上が調査研究となります。なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会】

- ・それでは質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問、ご意見はございますか。

【委員】

- ・3年生の教科書に「卒業文集最後の二行」という資料があります。日本文教出版は39ページ、東京書籍は136ページです。日本文教出版は、自分にプラスワンがあり、これからの自の生き方について考える時間が位置付けられています。東京書籍は、「見つめよう」があり、差別や偏見をなくすために、どのような心が大切なのかについて考える時間が位置付けられています。道徳教育では、自分のことを考えさせる瞬間が必要です。そういうことを考えると、日本文教出版がよいと思います。

【委員】

- ・道徳の学び方として日本文教出版は「道徳科の学びをはじめよう」、東京書籍は「道徳科の授業はこん

な時間に」があります。東京書籍は、1年生から3年生まですべて同じ内容になっています。日本文教出版は、どのように学ぶかについては同じですが、学年が上がるにつれて、発展的に広がり高まっていくようになっています。3年生は、「みんなで話すときに大切なこと」の中に、「いろいろな角度から考える」という多面的に考えることを示しています。日本文教出版のつくり方、考え方の方がよいと思います。

【委員】

- ・世界の紛争が激しくなる中、国際理解、国際協力を大切にしたいです。岐阜県にゆかりのある杉原千畝さんは2者で扱われています。東京書籍は2年生42ページ「六千人の命のビザ」、日本文教出版は3年生44ページ「命のトラジットビザ」です。学年の発達段階を考えると3年生でじっくり考えさせたいという思いがあります。資料の量は、東京書籍は見開き3ページ、日本文教出版は見開き2ページです。資料があまり長くない方が、生徒同士の対話の時間を確保できると思います。
- ・「稲むらの火」は、東京書籍は扱っていません。「稲むらの火」は非常によい資料だと思っています。
- ・そういったことを考えると日本文教出版がよいと思います。

【委員】

- ・2者の目次を比べたとき、東京書籍は「命を考える」、日本文教出版は「より良い社会を考える」がテーマになっています。学校毎にテーマを設定して計画されていると思いますが、「いじめ」に関してはどの学校もテーマとしているはずです。東京書籍は、全学年3つずつです。日本文教出版は、1年生6つ、2年生5つ、3年生4つなっている。各学年のいじめの扱いについて日本文教出版がよいと思います。

【委員】

- ・繰り返されるいじめの問題に関わって、日本文教出版は、1年生は6つ、2年生は5つ、3年生は4つです。東京書籍は、全学年3つずつです。複数の小学校から1つの中学校に集まる1年生だからこそ「いじめ」の扱いを重点にする必要があると思います。
- ・また、日本文教出版はよりよい社会を考えることに関わって、1年生は4つ、2年生は7つ、3年生は8つとなっています。学年が上がるにつれて、社会の中で自分がどう関わることが大切だと思います。日本文教出版の意図が分かり、その意図がよいと思います。

【委員】

- ・日本文教出版の配列が、何度も考えることができるような仕組みになっています。考え深めるということやどのように考えるかについて示されているところがよいと思いました。

【委員】

- ・道徳においては、議論をし、多様な意見を受け入れながら自分の考えをつくること、最後は自分をみつめることが大切です。日本文教出版2年生38、39ページに「自分の考え方を見つめよう」があります。どんな考え方をしていくとよいのかわかりやすく示されているところがよいです。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、日本文教出版を採択することが望ましいという方向だと思われれます。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

【司会】

- ・これもちまして、すべての議題を終了いたします。
- ・続いて、事務局より諸連絡をいたします。

【事務局】

- ・9月1日以降、美濃地区教科用図書採択関係の情報については、情報公開対象となります。8月31日までは、本協議会の日時、場所、委員の氏名、会の内容等について、一切公表や他言することのないよう、格段のご協力を重ねてお願い申し上げます。
- ・前回も申し上げましたとおり、この協議会は秘密会議ですので、写真や動画の撮影、ブログ、フェイスブック等、SNSへの掲載などは、絶対にしないようにお願いします。
- ・各市教育委員会事務局におかれましては、各市の情報公開条例に基づき、適切に公開がなされるよう、お願いいたします。
- ・特別支援学級における教科用図書についてです。特別支援学級では、学校教育法附則第9条第1項の規定によって、教科書目録に登載されている教科書以外の教科用図書を、児童生徒の障がいの種類・程度、能力・特性等に応じた図書を採択することができます。これを「一般図書」といいます。各市へ送付されている岐阜県教育委員会が作成した一般図書選定資料を十分に活用し、採択基準の「採択に当たっての留意事項（5）」に基づいて、適正な採択が行われるようにご配慮をお願いします。
- ・最後に、お手元の資料につきましては、全てその場においてお帰りください。よろしくお願いたします。

【司会】

- ・これもちまして、令和6年度 第3回 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を終了します。